

学習指導資料

「学習評価の事例集」（宮城県版）

高等学校

第2編（各教科）

芸術（書道）

令和4年1月

宮城県教育委員会

仙台市教育委員会

石巻市教育委員会

<各事例概要一覧と事例>

(P. 3～16)

事例1 キーワード 指導と評価の計画から評価の総括まで、「主体的に学習に取り組む態度」の評価、ICTの活用

科目 書道 I

(内容のまとめり 「A表現」(1)漢字仮名交じりの書及び〔共通事項〕(1),「B鑑賞」(1))

単元 「漢字仮名交じりの書」の創作～カレンダー制作～

(P. 17～31)

事例2 キーワード 指導と評価の計画から評価の総括まで

科目 書道 I

(内容のまとめり 「A表現」(1)漢字仮名交じりの書及び〔共通事項〕(1),「B鑑賞」(1))

単元 目的や用途に即して、生活の中に書をいかそう

(P. 32～44)

事例3 キーワード 指導と評価の計画から評価の総括まで、「主体的に学習に取り組む態度」の評価、ICTの活用

科目 書道 I

(内容のまとめり 「A表現」(2)漢字の書及び〔共通事項〕(1),「B鑑賞」(1))

単元 「漢字の書」の臨書～構想から作品完成まで～

(P. 45～61)

事例4 キーワード 指導と評価の計画から評価の総括まで、「主体的に学習に取り組む態度」の評価、ICTの活用

科目 書道 I

(内容のまとめり 「A表現」(2)漢字の書及び〔共通事項〕(1),「B鑑賞」(1))

単元 「漢字の書 篆刻」～構想から作品完成まで～

(P. 62～74)

事例5 キーワード 指導と評価の計画から評価の総括まで、「主体的に学習に取り組む態度」の評価、ICTの活用

科目 書道 I

(内容のまとめり 「A表現」(3)仮名の書及び〔共通事項〕(1),「B鑑賞」(1))

単元 「仮名の書」の臨書～導入から臨書まで～

(P. 75～86)

事例6 キーワード 指導と評価の計画から評価の総括まで

科目 書道 I

(内容のまとめり 「A表現」(3)仮名の書及び〔共通事項〕(1),「B鑑賞」(1))

単元 仮名の創作～自作の和歌を作品にしよう～

(P. 87～96)

事例7 キーワード 指導と評価の計画から評価の総括まで、「主体的に学習に取り組む態度」の評価、ICTの活用

科目 書道 I

(内容のまとめり 「B鑑賞」(1)及び〔共通事項〕)

単元 「鑑賞」～地域文化の学習～

<活用にあたって>

1 授業計画のポイント

各事例の「4 指導と評価の計画」を見ていただくと、「観点の確認」、「構想・工夫の見直し」、「作品制作」等が、1つの単元の中で何回も繰り返し記載されていることに気づいていただけたと思います。これは、PDCAサイクルを働かせ、新しい視点で学習を振り返り、自らの構想や工夫を再構築する過程を繰り返し行うことを意識しているからです。ただ作品を制作させるのではなく、授業者の意図的・計画的な指導によって、生徒自らが書の見方・考え方を働かせていけるような資質・能力の育成が、これからは特に求められます。

各校の授業においても、当該事例を参考に、意図的・計画的な授業展開の実施をお願いいたします。

2 本事例集の記載の仕方について

各事例の「4 指導と評価の計画」と「5 学習活動例での見取りと支援の例」については、事例によって、展開ごとセットにして記載している場合と、それぞれ一続きでまとめて記載している場合があります。対応させたほうが分かりやすいという事例の場合は交互に、全体の流れに注目してほしい場合には一続きで記載していますので、記載の仕方に違いがあることを承知願います。

3 評価の際の生徒の具体的な姿について

各事例には、観点別学習状況の判断の例として「Aと評価する例」「Bと評価する例」等が出てきますが、これはあくまでも参考例です。A、B等の生徒の具体的な姿等の設定については、生徒や学校の実情、教材の違いによって異なりますので、当該事例が絶対的な規準を示すものではないということに留意願います。

4 年間指導計画作成ファイルについて

「指導と評価の一体化」の観点から、年間の指導計画作成段階で、学習指導要領の指導事項に基づいた評価規準の設定等が必要となってきます。意図的かつ計画的で、履修漏れのない年間計画及び評価規準等が作成できるよう、補助となる入力表(Excel)を作成しましたので、活用願います。

5 ワークシートについて

ワークシートは、先生方の授業でも加工し直して活用していただけるよう、ワード形式等でも掲載します。

芸術科（書道） 事例1（書道Ⅰ）

キーワード 指導と評価の計画から評価の総括まで、「主体的に学習に取り組む態度」の評価、ICTの活用

単元名

「漢字仮名交じりの書」の創作
～カレンダー制作～

内容のまとめり（複合単元）

「A表現」(1) 漢字仮名交じりの書及び〔共通事項〕(1), 「B鑑賞」(1)

1 単元の目標

(1) 「知識及び技能」

- ・用具・用材の特徴と表現効果との関わりについて理解する。【「A表現」(1)イ(ア)】
- ・線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わりについて理解する。【「B鑑賞」(1)イ(ア)】
- ・漢字と仮名の調和した線質による表現をするための基礎的な技能を身に付ける。

【「A表現」(1)ウ(イ)】

(2) 「思考力、判断力、表現力等」

- ・知識や技能を得たり生かしたりしながら、漢字と仮名の調和した字形、文字の大きさ、全体の構成について構想し工夫する。【「A表現」(1)ア(ア)】
- ・鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら、生活や社会における書の効用について考え、書のよさや美しさを味わい捉える。【「B鑑賞」(1)ア(イ)】

(3) 「学びに向かう力、人間性等」

自身の表現の意図に基づき、漢字仮名交じりの書の特質に基づいて表現することや、書のよさや美しさを感じ、作品や書の意味や価値等について考えながら鑑賞することに主体的に取り組む、書に対する感性を豊かにし、書を愛好する心情を養う。

2 単元の評価規準 ※ 国立教育政策研究所（以下「国研」と記す）資料 p. 33, p. 38 参照

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・用筆・運筆から生み出される書の表現性とその表現効果との関わりについて理解している。 ・書を構成する要素について、それら相互の関連がもたらす働きと関わらせて理解している。 ・用具・用材の特徴と表現効果との関わりについて理解している。 ・線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わりについて理解している。 ・漢字と仮名の調和した線質による表現するための基礎的な技能を身に付け、表している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・知識や技能を得たり生かしたりしながら、漢字と仮名の調和した字形、文字の大きさ、全体の構成について構想し工夫している。 ・鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら、生活や社会における書の効用について考え、書のよさや美しさを味わい捉えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に表現の幅広い学習活動に粘り強く取り組もうとしている。 ・書や作品の意味や価値について自己調整しながら主体的に鑑賞の幅広い学習活動に取り組もうとしている。

3 指導と評価の計画（概要）

学習活動		知識・技能		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
		知	技	思	態表	態鑑
展開1	鑑賞①	↓	↓	↓	↓	↓
	観点の確認①					
	構想・工夫①					
	言葉の選定①-1					
	鑑賞②					
	意見交換①					
	構想・工夫の見直し①					
	言葉の選定①-2					
	学習の振り返り①					
	学習の振り返り①					
展開2	観点の確認②	↓	↓	↓	↓	↓
	構想・工夫②					
	作品制作①-1					
	鑑賞③					
	意見交換②					
	構想・工夫の見直し②					
	作品制作①-2					
	学習の振り返り②					
展開3	観点の確認③	↓	↓	↓	↓	↓
	構想・工夫③					
	作品制作②-1					
	鑑賞④					
	意見交換③					
	構想・工夫の見直し③					
	作品制作②-2					
	学習の振り返り③					
展開4	観点の確認④	↓	↓	↓	↓	↓
	構想・工夫④					
	作品制作③-1					
	鑑賞⑤					
	意見交換④					
	構想・工夫の見直し④					
	作品制作③-2					
	学習の振り返り④					
展開5	観点の確認⑤	↓	↓	↓	↓	↓
	構想・工夫⑤					
	作品制作④-1					
	鑑賞⑥					
	意見交換⑤					
	構想・工夫の見直し⑤					
	作品制作④-2					
	学習の振り返り⑤					
	鑑賞⑦					
	最終自己評価					
単元の学習のまとめ						

● 評価場面 ; 評価を記録に残す場面 ○: 指導に生かす評価を重点的に行う場面 矢印: 評価の継続性

4 指導と評価の計画 (全 10 時間)

展開 (時数)	ねらい・学習活動	評価の方法				
		観 鑑	活動の様子 表	ワークシート 鑑	作品 表	作品 鑑
		知	技	思	態表	態鑑
1 (2)	<p>○鑑賞① 生徒作品例</p> <ul style="list-style-type: none"> 作品例(過去の生徒作品等)の鑑賞を行い、これまでの学習を振り返りながら、既得の知識及び知識に基づく観点を活用して鑑賞した作品のよさや美しさを捉える。 <p>○観点の確認①</p> <ul style="list-style-type: none"> 既習の観点を確認するとともに、新たな観点について理解する。(観点の確認②～⑤の活動は共通) 言葉と表現効果 知的財産権・著作権 <p>○構想・工夫①</p> <ul style="list-style-type: none"> グループで決めたテーマ・季節をもとに、自身の表現の意図を思い描き、意図に対して適切な言葉を考える。 <p>○言葉の選定①-1</p> <p>○鑑賞② (グループ)</p> <ul style="list-style-type: none"> グループで決めたテーマに見合った言葉となっているか他者と共有・相互鑑賞する。(鑑賞③～⑦の活動は共通) <p>○意見交換①</p> <ul style="list-style-type: none"> グループで決めたテーマに見合った言葉・作品となっているか他者と相互批評・意見交換をする。(意見交換②～④の活動は共通) <p>○構想・工夫の見直し①</p> <ul style="list-style-type: none"> 相互批評・意見交換及びそれらを踏まえた自己評価と、新たに確認・理解した観点を生かして、自身の表現の意図、構想、表現の工夫を見直し、必要な修正と新たな課題を確認する。(構想・工夫の見直し②～⑤の活動は共通) <p>○言葉の選定①-2</p> <p>○学習の振り返り①</p> <ul style="list-style-type: none"> 本時の活動を振り返り、次時の活動目標を記録する。(学習の振り返り②～⑤の活動は共通) 					
2 (2)	<p>○観点の確認②</p> <ul style="list-style-type: none"> 漢字と仮名の調和 <p>○構想・工夫②</p> <ul style="list-style-type: none"> グループで決めた古典をもとに、作品草稿を練り、漢字と仮名の調和について仮説を設定する。 					

教師や生徒の動画を視聴するなど ICT を効果的に活用する。以下展開 2～5 も同様。

観
ワ

2 (2)	<p>○作品制作①-1 ・意図に基づく構想と表現の工夫をもとに、作品を制作する。(作品制作②~④の活動は共通)</p> <p>○鑑賞③(グループ)</p> <p>○意見交換②</p> <p>○構想・工夫の見直し②</p> <p>○作品制作①-2</p> <p>○学習の振り返り②</p>	ワ表	作			
3 (2)	<p>○観点の確認③ ・書を構成する要素である用具・用材(筆・墨等)の特徴による表現性・表現効果</p> <p>○構想・工夫③ ・新たな観点に基づき、自身の言葉に適した用具・用材について仮説を設定する。</p> <p>○作品制作②-1</p> <p>○鑑賞④(グループ)</p> <p>○意見交換③</p> <p>○構想・工夫の見直し③</p> <p>○作品制作②-2</p> <p>○学習の振り返り③</p>	ワ鑑	作	ワ表		
4 (2)	<p>○観点の確認④ ・漢字仮名交じりの書の特徴に応じた表現及び紙面構成(行頭・行末の変化, 文字の大小による変化, 余白の変化等)</p> <p>○構想・工夫④ ・漢字仮名交じりの書の特徴に応じた表現及び紙面構成について仮説を設定する。</p> <p>○作品制作③-1</p> <p>○鑑賞⑤(グループ)</p> <p>○意見交換④</p> <p>○構想・工夫の見直し④</p> <p>○作品制作③-2</p> <p>○学習の振り返り④</p>		作	ワ鑑	ワ表	
5 (2)	<p>○観点の確認⑤ ・押印に関する知識と、押印と全体構成との関係</p> <p>○構想・工夫⑤ ・押印と全体構成との関係について仮説を設定する。</p> <p>○作品制作④-1</p> <p>○鑑賞⑥(グループ)</p> <p>○意見交換⑤</p> <p>○構想・工夫の見直し⑤</p> <p>○作品制作④-2(清書・押印)</p> <p>○学習の振り返り⑤</p> <p>○鑑賞⑦(全体) ・最終作品をクラス全体で共有・相互鑑賞し、それぞれの作品における表現の意図、意図に基づ</p>		作表			

5 (2)	<p>く構想，その実現のための表現の工夫について，その成果を実感的に感受し，捉える。</p> <p>○最終自己評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単元でのこれまでの活動を振り返り，作品の変化や表現の工夫の経緯，自身が思考を積み重ねてきた過程，身に付けた知識や技能を改めて確認し，完成した最終作品及び一連の創作活動について自己評価を行う。 <p>○単元の学習のまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学習を振り返り，「漢字の書」，「仮名の書」での学習内容，その中で併せて学習してきた〔共通事項〕の内容について改めて確認するとともに，創造された作品の意味や価値について改めて考え，「漢字仮名交じりの書」の特質と書や文字の生活や社会との関わりについて考える。 ・「漢字仮名交じりの書」の学習を通して身に付けた知識や技能，見方・考え方を生活や社会の中でいかに生かすことができるかについて，主体的に考える。 			観 _フ	鑑 _フ
----------	---	--	--	----------------	----------------

5 本事例における観点別学習状況の判断の例

評価の観点と単元の評価規準		○「おおむね満足できる」状況（B）の例 ◎「十分満足できる」状況（A）の例 ◆「努力を要する」状況（C）と判断される生徒への手立て
知識・技能	知	<ul style="list-style-type: none"> ・用具・用材の特徴と表現効果との関わりについて理解している。【表現】 ・線質，字形，構成等の要素と表現効果や風趣との関わりについて理解している。【鑑賞】
	技	<ul style="list-style-type: none"> ・名筆や現代の書に基づく効果的な表現をするための基礎的な技能を身に付け，表している

		る。	きている。 ◆具体例を示して表現法を確認させ、その技能を活用し表現を工夫して表すということを実感的に捉え、表すことができるよう支援する。
思考・判断・表現	思	・知識や技能を得たり生かしたりしながら、漢字と仮名の調和した字形、文字の大きさ、全体の構成について構想し工夫している。 【表現】	○これまでの学習活動の中で得た知識や技能を働かせて、自身の表現の意図に基づき学習活動を見直し、言語化している。 ◎これまでの学習活動の中で身に付けた知識や技能を得たり生かしたりしながら、自身の感じ方や捉え方、考え方を総合的・統合的に働かせて、自身の表現の意図に基づき学習活動を見直し、適切に言語化することができている。 ◆考える手立てや観点を示したり、言語活動を通して他者の意見を参考にしたりするなどして、これまでの学習活動の中で身に付けた知識や技能と関連させながら、自身の学習活動の見直しに生かすことができるよう支援する。
		・鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら、生活や社会における書の効用について考え、書よさや美しさを味わい捉えている。【鑑賞】	○鑑賞に関わる知識を自身及び他者の作品の表現の工夫について根拠をもって味わい捉え、言語化している。 ◎鑑賞活動を通して鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら、自身及び他者の作品の表現の工夫について、そのよさや美しさを実感的に感受し、作品の意味や価値について根拠をもって味わい捉え、生活や社会における書の効用について深く考え、適切に言語化することができている。 ◆考える手立てや観点を示したり、言語活動を通して他者の意見を参考にしたりするなどして、これまでの学習活動の中で身に付けた知識や技能と関連させながら、書よさや美しさ感受し、作品の意味や価値について味わい捉え、生活や社会における書の効用について深く考えられるよう支援する。
主体的に学習に取り組む態度	態表	・主体的に表現の幅広い学習活動に粘り強く取り組もうとしている。	○学習活動の中で身に付けた知識・技能を活用し、自らの表現の意図に基づき、振り返ったり見通しを立てたりしながら構想・工夫を見直し取り組もうとしている。 ◎学習活動の中で身に付けた知識・技能を活用し、書の伝統と文化の価値、書や文字の意味や価値について深く考えるとともに、自らの表現の意図に基づき、振り返ったり見通しを立てたりしながら構想・工夫を見直し、粘り強く作品制作に取り組もうとしている。 ◆学習活動を振り返らせ、参考とする古典、名筆や現代の書の表現の工夫を確認したり、構想・工夫の記録から捉え直したりすることで、身に付けてきた知識・技能を活用して表現を工夫できるよう支援する。
		・書や作品の意味や価値について自己調整しながら、主体的に鑑賞の幅広い学習活動に取り組もうとしている。	○書や文字の意味や価値について学習を振り返ったり見通しを立てたりしながら鑑賞活動に取り組もうとしている。 ◎学習活動の中で身に付けた知識・技能を活用し、書の伝統と文化の価値、書や文字の意味や価値について深く考えるとともに、鑑賞を通しての学習を振り返ったり見通しを立てたりしながら、主体的に鑑賞活動に取り組もうとしている。 ◆学習を通して鑑賞した古典や自らが制作してきた作品を振り返らせることで、作品や書よさや美しさを感じたり、書の伝統と文化の価値、書や文字の意味や価値について考えたり

			できるよう支援する。
--	--	--	------------

6 学習活動例での見取りと支援の例

《展開1 評価例》

〈指導に生かす評価（例）〉

思表 言葉の選定に注目し、生徒作品例の鑑賞を生かして自身の表現の意図を思い描き、意図に基づいて言葉を考え、選定している状況を見取る。また、「漢字の書」での既習の古典の書風を活用して作品を構想するなど、既習の知識・観点を活用して考えたり、新たに得た知識・観点を生かしたりして、自己評価と構想の見直しに取り組んでいる状況を意見交換での発言やワークシートの記述から見取る。

本展開での活動例では、言葉の選定で漢字と仮名の選択で工夫しようとしている状況と、意見交換を自身の構想・工夫の見直しに生かそうとしている状況がワークシートの記述から見取れた。

〈支援・助言（例）〉

言葉の選定に苦慮する場合には、自身が一番伝えたいことをまずはグループで意見交換をしながら、相互に話し合いを重ね、単語化し、言葉を膨らませるよう支援する。

※以下、展開2～5の〈指導に生かす評価（例）〉・〈支援・助言（例）〉については省略する。

《展開2 評価例》

〈記録に残す評価（例）〉

知表 指導と評価

・表現性や表現効果について知識を活用して分析的に捉えるよう指導し、既習の古典が漢字仮名交じりの書へ活用・応用できることによって多様な書の美が表現できることを理解しているかを見取り評価する。【活動の様子】【ワークシート】

【評価A（例）】

【ワークシート記入（例）】

参考とする牛欄造像記をベースに平仮名を表現しようとしたが、造像記の風趣を生かすことを考えて片仮名に変更した。方筆の表現効果に合わせて言葉も少し変更した。

・書の表現性や表現効果について分析的に捉え、漢字仮名交じりの書の多様な表現について深く理解し、適切に言語化して表現していることがワークシートから見取れたのでAとした。

【評価B（例）】

【ワークシート記入（例）】

漢字と仮名のバランスを考え、漢字は大きく、仮名は小さくした。独特な筆の入り方と右斜め上に払う横画の特徴はよく表現できたと思う。

・漢字仮名交じりの書の多様な表現効果について理解していることがワークシートから見とれたのでBとし、ワークシートの記述について適切に言語化して表現するよう指導・助言した。

《展開3 評価例》

〈記録に残す評価（例）〉

知鑑 指導と評価

・線質や墨色等の工夫した点を紹介し合い、観点をもとにして説明するよう指導し、用具・用材の組み合わせによって多様な書の美が表現できることに気付き、知識を活用して表現性や表現効果を捉えているかを見取り評価する。【活動の様子】【ワークシート】

【評価A（例）】

【ワークシート記入（例）】

長鋒の筆と濃墨の組み合わせにより、おおらかで温雅な作風を表現できた。特に冒頭の潤筆で送筆した箇所筆勢をあらわすことができた。

・用具・用材の効果を適正に理解し、表現の工夫について粘り強く取り組もうとしている様子がワークシートから見とれたのでAとした。

【評価B（例）】

【ワークシート記入（例）】

硬い筆を使って勢いのあるように仕上げたかったので、スピードを意識して書いた。かすれた箇所がそのあらわれです。

・用具・用材の効果を適正に理解し、表現の工夫について取り組もうとしている様子がワークシートから見とれたのでBとし、表現性や表現効果について指導・助言した。

〈記録に残す評価（例）〉

思表 指導と評価

・他者との意見交換、見方・考え方の交流に取り組むことを通して「感じたことや捉えたこと」を構想・工夫の見直しに生かせるよう指導し、その活動の過程で鑑賞と意見交換を生かして構想の見直しを行い、新たな観点で構想・工夫を再構築しているかを見取り評価する。【活動の様子】

【ワークシート】

【評価B（例）】

【ワークシート記入（例）】

淡墨でにじみを表現したが、全体にぼやけすぎてしまった。Aさんの意見を参考に墨と水のにじみ具合について細かく調べていきたい。

・用具・用材の変化には気づいたが、効果的に表現するまで活用できていなかった点がワークシートから見とれたのでBとし、表現効果について指導・助言した。

《展開4 評価例》

〈記録に残す評価（例）〉

思鑑 指導と評価

・新たに得た鑑賞に関わる知識を生かして互いの作品を鑑賞し、その良さや改善点について根拠に基づいて意見交換するよう指導し、その活動において根拠に基づいて鑑賞し適切な用語を用いて言語化しているかを見取り評価する。【活動の様子】【ワークシート】

【評価A（例）】

【ワークシート記入（例）】

**【Aさんの作品】意図的な余白が作品に黒と白のメリハリが生まれることに気づいた。
【Bさんの作品】行頭がそろっているので、変化が少ないように感じた。仮名の散らし書きを参考にしようと思った。**

・根拠に基づいて鑑賞し、適切な用語を用いて言語化していることが活動の様子やワークシートから見取れたのでAとした。

〈記録に残す評価（例）〉

態表 指導と評価

・意図に基づく構想の実現に向けて表現を工夫するよう指導し、その実現に向けて粘り強く取り組もうとしている態度を見取る。【活動の様子】【ワークシート】

【評価A（例）】

【ワークシート記入（例）】

縦書きを基調として構想を練っていたが、視点を変えて横書きについても比較、検討した。また、仮名の書で学習した返し書きも表現の幅を広げる要素だと気づいた。

・表現の工夫について粘り強く取り組もうとしている様子がワークシートから見取れたのでAとした。

【評価B（例）】

【ワークシート記入（例）】

行頭・行末の変化だけでなく、行間の広い・狭いによっても雰囲気が変わってくることに気づいた。表現の効果の多様性について改めて考えることができた。

・表現の工夫について取り組もうとしている様子がワークシートから見取れたのでBとし、表現効果やワークシートの記述についてより具体的に記述するよう指導・助言した。

《展開5 評価例》

〈記録に残す評価（例）〉

技 指導と評価

・身に付けた技能を適切に活用するとともに、課題とする言葉と表現の調和を理解して、効果的に工夫して表せるよう指導し、自身の表現の意図に基づく表現のために効果的に表現しているかを見取り評価する。【作品】【活動の様子】

【評価A（例）】

・熱心に書表現の活動に取り組み、完成度が高く、構想・工夫の見直しを繰り返し、身に付けた技能を活用して表現を工夫して適切に表していることが見とれたのでAとした。

【評価B（例）】

・書表現の活動の中で、構想・工夫の見直しを繰り返し、身に付けた技能を活用して表現を工夫していることが作品から見取れたが、完成度については優れたものまででは至らなかったためBとした。

〈記録に残す評価（例）〉

鑑 指導と評価

・自らの表現を見出すことの楽しさや大切さを実感することで、新たに芸術科書道の学習に取り組む意欲を自ら高められるよう指導し、今後の生活の中で生かしていくことに主体的に向き合おうとしている態度を見取り評価する。【活動の様子】【ワークシート】

【評価A（例）】

【ワークシート記入（例）】

自分の想いや個性を率直に表現できるのが漢字仮名交じり書の魅力ではあるが、古典や名筆を通じて学んだ技術や鑑賞の目がないと表現できないのだと改めて感じた。今回の作品制作を通して、普段の生活の中にあるポスターや広告などの漢字仮名交じりの書に注目し、表現の幅を広げていこうと思った。

・鑑賞・評価することの意義を実感し、今後の生活の中で生かしていくことに主体的に向き合おうとしている態度がワークシートから見とれたのでAとした。

【評価B（例）】

【ワークシート記入（例）】

今回の作品制作を通して、自分の意図を効果的にあらわすための表現効果は無限にあると感じた。ここでの学習が他にも生かせるよう頑張りたいと思います。

・鑑賞・評価することの意義を実感し、今後の生活の中で生かしていくことに主体的に向き合おうとしている態度がワークシートから見とれたが、具体的な表記がなかったためBとした。

7 観点別学習評価の総括

(1) 観点別学習状況の総括の具体

<記録に残す評価の総括(例)>

知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
知識	技能			表現における主体的に学習に取り組む態度	鑑賞における主体的に学習に取り組む態度	
記①表	記②鑑	記録①表	記①表	記②鑑	記①表	記②鑑
B	A	A	A	A	A	A
A			A	A	A	A
A		A		A		

(2) 本事例における観点別学習状況の評価の総括(例)

評価 規準	知識・技能		思考・判断・表現				主体的に学習に 取り組む態度		
	知	技	思				態表	態鑑	
主な学習活動	鑑賞(知識の活用)	意見交換(知識の活用)	作品制作(作品)	言葉の選定	構想・工夫(再構築)	意見交換(工夫の言語化)	単元のまとめ(自己評価)	構想・工夫(表現の工夫)	単元の学習のまとめ
展開1				・					
展開2		表	・ a ・ A						
展開3	鑑		・ b ・ B		表				
展開4			・ c ・ C			鑑	表		
展開5			・ d 表 D					鑑	
生徒い	B		A	A				A	A
	A			A				A	
生徒ろ	A		B	B				A	C
	A			B				B	

※「・」は、指導の改善に生かす評価。表 鑑 は、記録に残す評価。

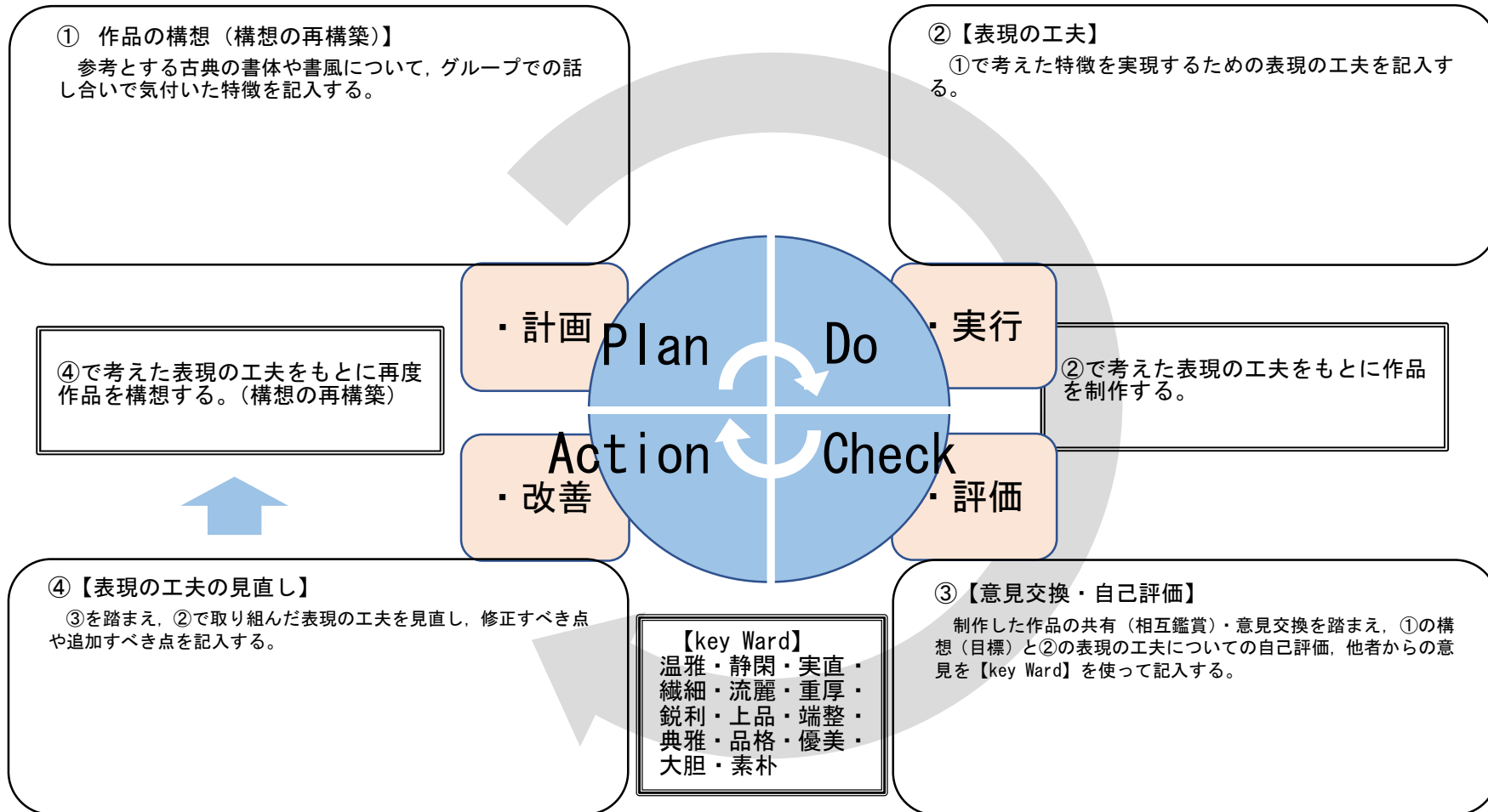
- ※ 観点別評価の総括の仕方については、評価結果のA, B, Cの組み合わせを基に評価する場合、評価結果のA, B, Cの数を基に評価する場合、評価結果のA, B, Cを数値に置き換えて評価する場合など、各学校が実情等に応じて予め定めておくこととなるが、本事例においては、「知識・技能」では技能を重視して評価すると予め決めていたので技能を重視してAとし、「主体的に学習に取り組む態度」については「A表現」と「B鑑賞」を同等に評価すると予め決めていたので、その平均としてBとした。
- ※ 本事例において「作品制作」は、すべての展開を通じて実施し、継続して見取り授業の改善に生かすこととした。また、展開①では「言葉の選定」について重点的に指導に生かす場面を設定した。
- ※ 本事例で「a」「A」等を付した活動は、身に付けさせたい資質・能力の育成状況を把握・評価するために比較等して見取る一連の活動を示し、「a（アルファベット小文字）」は育成の過程、「A（アルファベット大文字）」は成果（記録に残す評価の対象）を示している。

時間をかけて行う活動等の記録は、評価の総括のためだけでなく、学習の過程において生徒が自分の学習の深まりを実感的に振り返り、また、振り返ったことを効果的に活用できるよう、作品を画像データとして蓄積したり、1枚のワークシートに継続して記録させたりする。

ワークシート（例）

書道Ⅰ グループによるカレンダー制作【 ① 書体・書風 ② 用具・用材 ③ 紙面構成 】

年 組 番 氏名 ()



書道Ⅰ グループによるカレンダー制作

1 何についての言葉にするかグループで話し合い、テーマを考えよう。

年組番	氏名
テーマ	メンバー

2 グループ内で担当する季節を確認して、言葉を考えよう。

担当する季節	考えた言葉

3 どうしてその言葉にしたか、理由を書こう。

--

4 考えた言葉が次のどちらにあてはまるか、言葉の形式を確認しよう。

A 詩的表現（想いを伝える）	B 説明的表現（事実を伝える）
----------------	-----------------

5 仕上りのイメージを思い浮かべて、参考とする古典を考えよう。

参考とする古典

6 参考にした古典の特徴を見つけ出し、記入しよう。

芸術科（書道） 事例2（書道Ⅰ）
 キーワード 指導と評価の計画から評価の総括まで

単元名
 目的や用途に即して、生活の中に書をいか
 そう

内容のまとめり（複合単元）
 「A表現」(1)漢字仮名交じりの書及び〔共通事
 項〕(1), 「B鑑賞」(1)

1 単元の目標

(1) 「知識及び技能」

- ・用具・用材の特徴と表現効果との関わりについて理解する。【「A表現」(3)イ(ア)】
- ・日本及び中国等の文字と書の伝統と文化について理解する。【「B鑑賞」イ(イ)】
- ・目的や用途に即した効果的な表現の技能を身に付ける。【「A表現」(3)ウ(ア)】

(2) 「思考力, 判断力, 表現力等」

- ・知識や技能を得たり生かしたりしながら、目的や用途に即した表現形式, 意図に基づいた表現について構想し工夫する。

【「A表現」(3)ア(イ)】

- ・鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら、生活や社会における書の効用について考え、書よさや美しさを味わって捉える。【「B鑑賞」ア(イ)】

(3) 「学びに向かう力, 人間性等」

- 自身の表現の意図に基づき、漢字仮名交じりの書の特質に基づいて表現することや、書よさや美しさを感じ、作品や書の意味や価値等について考えながら鑑賞することに主体的に取り組み、書に対する感性を豊かにし、書を愛好する心情を養う。

2 単元の評価規準 ※ 国研資料 p. 33, p. 38 参照

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>[共通事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・用筆・運筆から生み出される書の表現性とその表現効果との関わりについて理解している。 ・書を構成する要素について、それら相互の関連がもたらす働きと関わらせて理解している。 <ul style="list-style-type: none"> ・用具・用材の特徴と表現効果との関わりについて理解している。 ・日本及び中国等の文字と書の伝統と文化について理解している。 ・目的や用途に即した効果的な表現をするための技能を身に付け、表している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目的や用途に即した表現形式, 意図に基づいた表現について構想し工夫している。 ・生活や社会における書の効用について考え、書よさや美しさを味わって捉えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に表現の幅広い学習活動に粘り強く取り組もうとしている。 ・書や作品の意味や価値について自己調整しながら主体的に鑑賞の幅広い学習活動に取り組もうとしている。

3 指導と評価の計画（概要）

学習活動		知識・技能		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
		知	技	思	態表	態鑑
展開 1	鑑賞①					◎
	鑑賞②	◎				
	鑑賞③	◎				
	鑑賞④					
	学習の振り返り①	●				
展開 2	観点の確認 I					
	構想・工夫 I					
	意見交換 I					
	構想・工夫の見直し I					
	作品制作 I		◎			
	学習の振り返り②					◎
展開 3	構想・工夫 II					
	意見交換 II					
	構想・工夫の見直し II					
	作品制作 II - ①		◎			
	学習の振り返り③					◎
展開 4	観点の確認 III					
	構想・工夫 III			◎		
	意見交換 III - ①					
	構想・工夫の見直し III - ①					
	作品制作 III - ①		◎			
	意見交換 III - ②	●				
	構想・工夫の見直し III - ②			●		
	作品制作 III - ②		◎			
学習の振り返り④					◎	
展開 5	鑑賞⑤			●		
	学習の振り返り③					
	最終自己評価				●	●
	単元学習のまとめ				●	●

● [評価場面] ; 評価を記録に残す場面 ◎: 指導に生かす評価を重点的に行う場面 矢印: 評価の継続性

4 指導と評価の計画 (全 14 時間)

展開 (時数)	ねらい・学習活動	評価の方法				
		観	鑑	表	作	鑑
		活動の様子	ワークシート	作品	は記録に残す評価	
		知	技	思	態表	態鑑
1 (2)	<p>○鑑賞① (生活や社会における書の役割)</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活や社会において、書がどのような役割を果たし、影響を及ぼしてきたかについて考える。 <p>○鑑賞② (日本及び中国等における芸術としての書)</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本及び中国等における文字文化の歴史を踏まえ、長い書の歴史の中で、毛筆で書かれた文字が、書として芸術や生活の中でどのような美の表現を確立していったのかを理解する。 <p>○鑑賞③ (鑑賞実践_日本の書)</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本の書の中で、日本独自の書の美が表現されていると思う作品を挙げ、それにはどのような美しさや味わいがあるかについて考察し、考えたことをクラス内で共有する。 <p>○鑑賞④ (鑑賞実践_生活における書の効用)</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活や社会の中から書が活用されている複数の場面を挙げ、生活の中でどのような文化を形成し、その効用や様式美等について考察し、考えたことをクラス内で共有する。 <p>○学習の振り返り①</p> <ul style="list-style-type: none"> アジアにおける文字と書の伝統と文化の広がりや、我が国が書を独自の伝統と文化で発展していったことについて、具体の書や様式美等と関連させながら考え、気付いたことや考えたことをまとめる。 	観				ワ
2 (3)	<p>○観点の確認Ⅰ「手紙やはがきを書く」</p> <ul style="list-style-type: none"> 日常における実用の書の場面では、便箋、封筒、はがき等、適切な形式と表し方と用具・用材があることについて確認する。 歴史上の文人達の名筆などを、参考として鑑賞する。 <p>○構想・工夫Ⅰ</p> <ul style="list-style-type: none"> 改まった場面を想定し、相手への礼儀を忘れずに自分の思いを伝えるには、どのような書式でどのような用具・用材を用いて表現するか、構想のためのワークシートを用いて考える。 	観				観

	<p>[構想のためのワークシート]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・硬筆等の種類（鉛筆，シャープペンシル，ボールペン等） ・紙の種類や様式（和紙，洋紙，便箋，封筒，はがき等） ・表現形式 ・下書き <p>○意見交換Ⅰ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・[構想のためのワークシート]を用いて，お互いに作品創作の内容を確認し合い，目的や用途に合った書式や表現になっているか点検し，意見を交換する。（ペア又はグループ） <p>○構想・工夫の見直しⅠ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・点検及び意見交換を経て，[構想のためのワークシート]を見直し，創作作品がよりよいものとなるよう内容を吟味する。 <p>○作品制作Ⅰ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見直した[構想のためのワークシート]に基づいて，表現する。 <p>○学習の振り返り②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「手紙やはがきを書く」という表現活動を通じて，目的や用途に即して表現することの意味を考え，気付いたことや反省点をまとめる。 	<p>ワ</p>		<p>観ワ</p>		<p>ワ</p>
<p>3 (3)</p>	<p>○観点の確認「のし袋や贈答の上書きを書く」Ⅱ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常における実用の書の場合では，適切な形式と表し方と用具・用材があることについて確認する。 <p>○構想・工夫Ⅱ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・冠婚葬祭の各場面を想定し，相手への礼儀を忘れずに自分の思いを伝えるには，どのような書式でどのような用具・用材を用いて表現するか，構想のためのワークシートを用いて考える。 <p>[構想のためのワークシート]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毛筆等の種類（和筆，唐筆等） ・紙の種類や様式（和紙，洋紙，水引等） ・表現形 ・下書き <p>○意見交換Ⅱ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・[構想のためのワークシート]を用いて，お互いに作品創作の内容を確認し合い，目的や用途に合った書式や表現になっているか点検し，意見を交換する。（ペア又はグループ） 	<p>観</p> <p>観ワ</p>		<p>観</p>		

	<p>○構想・工夫の見直しⅡ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・点検及び意見交換を経て、[構想のためのワークシート]を見直し、創作作品がよりよいものとなるよう内容を吟味する。 <p>○作品制作Ⅱ－①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見直した[構想のためのワークシート]に基づいて、表現する。 <p>○学習の振り返り③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「のし袋や贈答の上書きを書く」という表現活動を通じて、目的や用途に即して表現することの意味を考え、気付いたことや反省点をまとめる。 		観	ワ
4 (5)	<p>○観点の確認「題字を書く（本の装丁や商品デザイン）」Ⅲ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本や商品の題字には、毛筆の書が活用されているものが多くあり、実用的な表現の側面だけではなく、美的要素も含んでいる点が評価されていることを理解し、どのような表し方や用具・用材が用いられているかについて確認する。 ・有名な本や賞品等を、参考として鑑賞する。 <p>○構想・工夫Ⅲ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の好きな本や商品の題字を表現するには、どのように表現するのが効果的か、制作の意図、書体や書式、用具・用材について、構想のためのワークシートを用いて考える。 <p>[構想のためのワークシート]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・制作の意図 ・毛筆等の種類（和筆、唐筆等） ・紙の種類や様式（和紙、洋紙、色） ・書式 ・下書き <p>○意見交換Ⅲ－①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・[構想のためのワークシート]を用いて、本や商品のよさが伝わるように工夫した自分の作品創作の意図等について説明し、他者に伝わる表現へとつながっているか意見交換をする。 <p>○構想・工夫の見直しⅢ－①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意見交換を経て、[構想のためのワークシート]を見直し、創作作品がよりよいものとなるよう内容を吟味する。 	観	観	ワ

	<p>○作品制作Ⅲ－① ・見直した[構想のためのワークシート]に基づいて、表現する。</p> <p>○意見交換Ⅲ－② ・制作途中の作品を他者と相互鑑賞し、意見交換をする。(ペア又はグループ)</p> <p>○構想・工夫の見直しⅢ－② ・意見交換を経て、[構想のためのワークシート]を見直し、創作作品がよりよいものとなるよう内容を吟味する。</p> <p>○作品制作Ⅲ－② ・吟味した内容を踏まえて、表現する。</p> <p>○学習の振り返り④ ・本や商品のよさが伝わるような表現とするために、書を構成する要素をよりよく吟味する重要性について、気付いたことや反省点をまとめる。</p>		作			
5 (1)	<p>○鑑賞⑤ ・制作した書作品(本や商品の題字)について、ICTを活用して作品を取り込み、発表資料を作成し、発表会を実施する。 ・発表会では、生活や社会の中で親しまれ、本や商品のよさが伝わるような表現になっているかどうか、作品について根拠をもって批評し合う。</p> <p>○学習の振り返り③</p> <p>○最終自己評価 ・これまでの活動を振り返り、目的や用途に基づいた表現の工夫について、表現形式や制作意図を踏まえてどのように吟味を重ね、実際の表現活動につなげたかを確認し、書に関する見方・考え方を働かせて自己評価を行う。</p> <p>○単元の学習のまとめ ・これまでの学習を振り返り、「漢字仮名交じりの書」での学習内容、その中で併せて学習してきた[共通事項]の内容について改めて確認するとともに、創造された作品の意味や価値について改めて考え、「漢字仮名交じりの書」の特質や、日本の書の伝統、文化について考える。 ・「漢字仮名交じりの書」の学習を通して身に付けた知識や技能、見方・考え方を生かしながら、書のよさや書がもたらす印象について考え、自分の言葉でどのように表現するかについて、主体的に考える。</p>		作表	ワ表	ワ	ワ鑑

5 本事例における観点別学習状況の判断の例

評価の観点と単元の評価規準		○「おおむね満足できる」状況（B）の例 ◎「十分満足できる」状況（A）の例 ◆「努力を要する」状況（C）と判断される生徒への手立て
知識・技能	知	<p>・用具・用材の特徴と表現効果との関わりについて理解している。 【表現】</p> <p>○用具・用材の特徴を踏まえて、課題に即して効果的に活用している。 ◎上記に加えて、用具・用材の効果の組み合わせによって得られる効果についても根拠をもって説明することができるなど、実感的に理解している。 ◆教科書や資料で確認させながら学習内容を振り返らせ、実際に用具・用材の違いによって表現効果にどのような違いが出るかを確かめさせ、実感的に理解することができるよう支援する。</p>
	技	<p>・日本及び中国等の文字と書の伝統文化について理解している。【鑑賞】</p> <p>○日本の書の伝統や文化について大まかに流れを理解している。 ◎上記に加えて、背景や具体の例を用いながら、適切に言語化して。 ◆日本と中国等の書を比べて具体的にどのような違いがあるか確認させ、それはどのような変遷があったのか理解することができるよう支援する。</p>
思考・判断・表現	思	<p>・目的や用途に即した効果的な表現をするための技能を身に付け、表している。【表現】</p> <p>○目的や用途に即して、書式や表現、用具・用材を適切に使い分ける必要があるという知識を生かし、課題に対して適切に選択して表す技能を身に付けている。 ◎上記に加えて、用具・用材の特質を踏まえた表現が、吟味した構想に基づいてよりよく表現できるよう技能を高め、全体として調和のとれた書作品に仕上がっている。 ◆目的や用途によってどのような用具・用材、表現が適切なのか、学習内容を振り返らせ、適切に選択できるよう支援する。</p>
	思	<p>・目的や用途に即した表現形式、意図に基づいた表現について構想し工夫している。【表現】</p> <p>○目的や用途に即して書式や表現、用具・用材を適切に使い分けて作品を構想し、その後の作品制作や意見交換等を踏まえて自分の構想・工夫を見直し、その内容を適切に言語化している。 ◎上記に加えて、構想の見直しの際には、自分の表現したい内容が、他者にどのように伝わっているかという視点があり、そのことを表現効果と結びつけ、適切に言語化している。 ◆構想のためのワークシートを用いながら、考える手立てや観点を具体的に示したり、教師が対話の相手となって、生徒が表現したい作品の内容や構成を言語化させたりしながら、自身の構想・工夫の見直しと再構築ができるよう支援する。</p> <p>・生活や社会における書の効用について考え、書よさや美しさを味わって捉えている。【鑑賞】</p> <p>○鑑賞活動を通して、書の見方・考え方を働かせ、具体の活用や様式美について、自分の考えを適切に言語化している。 ◎上記に加えて、その書が社会にどのような印象や影響を与えるかについて、自分の考えを適切に言語化している。 ◆批評シートを用いながら、考える手立てや観点を具体的に示し、教師が対話の相手となって、生徒が鑑賞した作品に対して抱いた印象を言語化できるよう支援する。</p>

主体的に学習に取り組む態度	態表	<p>・主体的に表現の幅広い学習活動に粘り強く取り組もうとしている。【表現】</p>	<p>○構想のワークシートや完成作品を基に、これまでの表現活動を踏まえ、目的や用途に即した表現となるよう、用具・用材、表現効果等を吟味しながら、よりよい書作品となるよう取り組もうとしていたかについて、具体的に言語化している。</p> <p>◎上記に加えて、制作しようとする作品が、他者にどのような印象を与えるものなのかという視点に立って、よりよい書作品となるよう吟味を重ねたことが読み取れる。</p> <p>◆構想のワークシートを基に、構想、作品制作、構想の見直し、作成制作の各段階でどのようなことを考えてきたか具体的に振り返らせ、どのように吟味してきたか具体的に言語化できるよう支援する。</p>
	態鑑	<p>・書や作品の意味や価値について自己調整しながら主体的に鑑賞の幅広い学習活動に取り組もうとしている。【鑑賞】</p>	<p>○鑑賞学習で身に付けた見方・考え方を働かせながら、作品の意味や価値について粘り強く主体的に考えようとしている。</p> <p>◎上記に加えて、日本の書の伝統や文化、歴史等がどのような様式美や味わいにつながっているかということ、自ら分析的に探求しようとしている。</p> <p>◆鑑賞学習で用いた資料や、構想のワークシート及び批評シートを基に、構想、作品制作、構想の見直し、対象となる作品からどのような印象を受けるか考えさせ、具体的に言語化できるよう支援する。</p>

6 学習活動例での見取りと支援の例

《展開1 評価例》

〈指導に生かす評価（例）〉

知鑑 指導と評価

・鑑賞領域の知識に係る記録に残す評価は、本展開の活動例では、展開1の最後の「学習の振り返り」のワークシートの記述から見取る予定でいるため、その前に、指導に生かす評価の場面を設定する。具体には、生徒が鑑賞について、授業者の解説を踏まえながら資料等で確認したり、分かったことをワークシートに記入したりしているかなど、授業者は生徒の学習の過程を的確に把握しておく必要がある。【ワークシート】

〈支援・助言（例）〉

理解したことをワークシートに書き込むことができていない生徒には、どのような点から分からないかを確かめた上で、教科書や資料等を具体的に指し示したり、平易な言葉に置き換えて分かりやすく説明し直したりするなどして、生徒の学習のつまずきを解消する。

なお、書道の用語等には、書の芸術性や味わいを指し示す言葉も多いため、最終的にはその用語の獲得まで至れるよう、配慮する必要がある。

※以下、展開2～3の〈指導に生かす評価（例）〉・〈支援・助言（例）〉については省略する。

〈記録に残す評価（例）〉

知表 指導と評価

・日本における書の伝統や文化は、長い歴史の中で、独自の書の美を確立していったという点に留意するよう指導し、具体の書や様式美等と関連させながら、分かったことをことについて適切にまとめているかを見取り、その状況を評価する。【ワークシート】

【評価A（例）】

【ワークシート記入（例）】

もともと文字を持たなかった日本は、中国から伝わった漢字を用いて、漢文で書いたり、漢字の音を用いて日本語を書いたりしていましたが、言葉や気持ちをそのまま表しやすいように日本独自の仮名が生み出されると、和様といわれる独自の表現を確立していったことがわかりました。国語の授業で、仮名の成立や国風文化について学習しましたが、正式な記録の時は漢文で、私的なものは仮名でという使い分けがあったことも、日本の書の伝統や文化に大きく影響し、散らし書きの構成や、鑑賞の掛け軸などの仕立てにつながっていったのだと思いました。

・日本の書の伝統や文化について、中国の書を受容しつつも、日本独自の美を確立していったことについて、具体的かつ適切な用語で言語化していることから、Aとした。

【評価B（例）】

【ワークシート記入（例）】

もともと文字を持たなかった日本に中国から漢字が伝わり、仮名ができた。仮名ができたので、いろんな人が自由に文字を書けるようになり、中国とは別に発展していった。漢字と仮名では形が違うので、書き方や様式も違っていたのだと思う。中国の字は大きく堂々としていて、日本の字は柔らかいということも、それぞれの国の特徴が出ていると思う。

・日本における書の伝統や文化の背景について理解し、中国と日本の書の書風の違いを分かっているようだが、具体的かつ適切な用語で言語化しているとはいえないことから、Bとした。
・書作品の味わいが、どのような線質、字形、構成等によってもたらされているかについて理解しているが、作品の制作意図を踏まえながら、具体的にイメージしているとまではいえないことから、Bとした。

〈記録に残す評価（例）〉

知表 指導と評価

・用具・用材によって表現効果が異なる点を具体的に指導し、課題に即して効果的に活用しようとしているかを見取り評価する。【ワークシート】

【評価A（例）】

【ワークシート記入（例）】

作品にするもの 本の装丁／「竜馬がゆく」司馬遼太郎

用いる用具・用材と、期待する効果／

幕末を駆け抜けた坂本龍馬の人生が描かれた本なので、硬い馬の毛の筆を用いて、濃墨で、たくましい字を書きたい。また、龍馬は土佐弁のイメージがあるので、素朴で自由な人なのではと思い、目の粗い和紙に、勢いよく書きたい。

・用具・用材の効果の組み合わせによって得られる効果についても根拠をもって説明することができ、実感的に理解していることが見取れるので、Aとした。
・作品の全体の調和を考えながら全体を再構成し、制作意図と仮名特有の表現効果を結びつけ、適切に言語化していることから、Aとした。

〈記録に残す評価（例）〉

思表 指導と評価

・他の生徒の作品や意見交換で得たことを構想・工夫の見直しに生かすよう指導し、新たな観点で構想・工夫を再構築しているかを見取り評価する。【ワークシート】

【評価A（例）】

【ワークシート記入（例）】

見直した点（理由も含めて）／

目の粗い和紙に硬い馬の毛で書いた場合は、かすれる箇所が多く、表現したかったくまさが十分感じられない、読みにくいという意見をもらったので、勢いのある字がはっきりと伝わるように、「なめらかな和紙＋硬い毛」の組み合わせに変更する。

・自分の表現が他者にどのような印象を与えるかという視点を持ちながら、実際の表現効果を予想して用具・用材を選び直していることが見取れるので、Aとした。

【評価A（例）】

【ワークシート記入（例）】

見直した点（理由も含めて）／

目の粗い和紙に堅い馬の毛で書いた場合は、かすれる箇所が多かったので、読みやすくなるように、なめらかな和紙に変更する。

・他の生徒の作品や意見交換で得たことを構想・工夫の見直しに生かしているが、自分の表現が他者にどのように伝わっているかという視点までは踏まえられていないので、Bとした。

〈記録に残す評価（例）〉

技 指導と評価

・構想を修正し、目的や用途に即して、書式や表現、用具・用材を適切に使い分けて表現するよう指導し、その活動の過程で技能を身に付け、効果的に表しているかを見取り評価する。【完成作品】

【評価A（例）】

・作品から構想・工夫の見直し、用具・用材の特徴を生かしながら、自分が表現したい内容に近づくよう作品が効果的に修正され、作品全体が調和のとれた仕上がりとなっていたのでAとした。

【評価B（例）】

・作品から構想・工夫の見直し、用具・用材を変更したが、用具・用材の組み合わせによって得られる表現効果が、自分が表現したい内容に近づくよう構想は修正されてはいたが、できあがった作品については、調和がとれた仕上がりとはまではいえないのでBとした。

《展開5 評価例》

〈記録に残す評価（例）〉

思鑑 指導と評価

・構想に基づいてどのような書表現にしたか等の工夫した点を紹介し合い、観点をもとにして意見交換を行うよう指導し、漢字仮名交じりの特質を踏まえながら、友人の書作品が世に出た場合、生活や社会にどのような影響（印象）を与えるかを考えさせ、その内容を見取る。【ワークシート】

【評価A（例）】

【発言（例）】

Nさんは、「行事ごとの和食レシピ」という料理本の題字を、真っ白な洋紙に、濃墨を使って九成宮禮泉銘のようなすっきりとした書体で、ひらがなやカタカナも漢字に調和するようしっきりとした楷書で書いていて、伝統ある和食のイメージがとても伝わってきました。本屋さんに行くと、いろんな料理の本が並んでいますが、伝統料理の本は重厚な感じの装丁が多いので、そういった本を探している人の目に、よくとまると思います。

・書の見方・考え方を働かせ、具体の活用について、その書が人や社会にどのような印象や影響を与えるかについて、自分の考えを適切に言語化していることから、Aとした。

【評価B（例）】

【発言（例）】

Nさんは、「行事ごとの和食レシピ」という料理本の題字を、真っ白な洋紙に、濃墨を使って九成宮禮泉銘のようなすっきりとした書体で、ひらがなやカタカナも漢字に調和するようしっきりとした楷書で書いていて、伝統ある和食のイメージがとても伝わってきました。

・書の見方・考え方を働かせ、具体の活用について、自分の考えを言語化しているが、その書が社会にどのような印象や影響を与えるかについてまでは考えを深めていないので、Bとした。

〈記録に残す評価（例）〉

態鑑 指導と評価

・鑑賞学習で身に付けた見方・考え方を働かせながら、作品の意味や価値について考えて記述するよう指導し、鑑賞学習の活動に主体的に取り組もうとする態度を見取り、評価する。【ワークシート】

【評価A（例）】

【ワークシート記入（例）】

文字や書は中国から始まったものだけれど、ひらがなやカタカナを生み出した日本人は、生活の中でも文字を使えるようになって、文字や書を使う場面が広がって、身の回りにも書を使ったものが多いことに気がついた。また、用具や用材の組み合わせでも伝わる美や風趣は異なることを学習したので、何が書いてあるかだけでなく、何を伝えたいかということも考えながら鑑賞していきたい。

・鑑賞学習で身に付けた見方・考え方を働かせ、日本の書の歴史等も踏まえながら、作品の意味や価値について主体的に考えようとしていることが見取れるので、Aとした。

〈記録に残す評価（例）〉

態表 指導と評価

これまでの表現活動を踏まえ、目的や用途に即した表現となるよう、用具・用材、表現効果等を吟味しながら、よりよい書作品となるよう取り組もうとしていたかワークシート等を具体的に確認するよう指導し、その振り返りにおいて、表現の工夫に粘り強く取り組もうとしている態度を見取り評価する。【ワークシート】

【評価A（例）】

【ワークシート記入（例）】

目的や用途によって書体や用具などを使い分けることで、相手に礼儀を伝えたり、相手の興味を引いたりするような効果があることを学習した。作品を完成させるまでに、作品の意見交換を行ったが、自分が考えた構想が相手に伝わらないこともあり、用具や用材の組み合わせを変えてみたが、決まるまで難しかった。自分の書いたものが人にどう見えるかということは大事なことだと思った。

目的や用途に即した表現となるよう、用具・用材、表現効果等を考えたことだけでなく、他者にどのような印象を与えるものなのかという視点にも立っていることから、Aとした。

【評価B（例）】

【ワークシート記入（例）】

目的や用途によって書体や用具などを使い分けることで、表現効果が変わることを学習した。半紙以外に書いたのは初めてだったが、紙を変えただけでも仕上がりが違ったので、自分が表現したいことに合わせて用具・用材を選ぶことは大事だと思った。

・目的や用途によって用具・用材を使い分けることや、用具用材によって表現効果が異なることを実感し、その重要性を認識していることはいかかであるが、他者にどのような印象を与えるかという視点にまではいたっていないため、Bとした。

7 観点別学習評価の総括

(1) 観点別学習状況の総括の具体

〈記録に残す評価の総括（例）〉

知識・技能		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度			
知識	技能		表現における主体的に学習に取り組む態度	鑑賞における主体的に学習に取り組む態度		
記①表	記②鑑	記録①表	記①表	記②鑑	記①表	記②鑑
B	A	A	B	B	A	B
A						
A			B		A	

(2) 本事例における観点別学習状況の評価の総括 (例)

評価規準	知識・技能				思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度				
	知		技		思			態表		態鑑		
主な学習活動	鑑賞	学習の振り返り	観点の確認	意見交換	作品制作	鑑賞	構想・工夫	構想・工夫の見直し	学習の振り返り	単元の学習のまとめ	鑑賞	単元の学習のまとめ
展開1	a a	A表鑑				.					e	
展開2			.	.	b		.	.	d			
展開3			.	.	b		.	.	d			
展開4			.	. 表	B表		c	C表	d			
展開5						鑑			.	D表		E表鑑
生徒い	B				B	A			A		C	
	B								B			
生徒ろ	B				A	B			B		B	
	A								B			

※「・」は、指導の改善に生かす評価。表鑑は、記録に残す評価。

※「学習の振り返り」は、すべての展開を通じて実施し、継続して見取り授業の改善に生かすこととした。表現領域の記録に残す評価は主に展開4で実施する。この単元では、目的や用途に合わせた表現の違いを学習するため、展開の2、3、4で作成する作品は異なるが、記録に残す評価は、目的や用途によって表現が異なるということの認識が高まった最終作品(展開4)で行う。

※ 観点別評価の総括の仕方については、評価結果のA、B、Cの組み合わせを基に評価する場合、評価結果のA、B、Cの数を基に評価する場合、評価結果のA、B、Cを数値に置き換えて評価する場合など、各学校が実情等に応じて予め決めておくこととなるが、本事例においては、「知識・技能」では技能を重視して評価すると予め決めていたので技能を重視してAとし、「主体的に学習に取り組む態度」については、「A表現」と「B鑑賞」を同等に評

価, 「BとC」「AとB」の組み合わせであれば, 「B」と評価すると予め決めていたので, それに従い評価した。

- ※ 本事例で「a」「A」等を付した活動は, 身に付けさせたい資質・能力の育成状況を把握・評価するために比較等して見取る一連の活動を示し, 「a (アルファベット小文字)」は育成の過程, 「A (アルファベット大文字)」は成果 (記録に残す評価の対象) を示している。時間をかけて行う活動等の記録は, 評価の総括のためだけでなく, 学習の過程において生徒が自分の学習の深まりを実感的に振り返り, また, 振り返ったことを効果的に活用できるよう, 作品を画像データとして蓄積したり, 1枚のワークシートに継続して記録させたりする。

目的や用途に即して、生活の中に書をいかそう

「構想のためのワークシート」

1 書作品にするもの（本の題字 ・ 商品の題字）

○ 題字（本のタイトル 又は 商品名）

○ 本のタイトルや商品名に対する自分なりのイメージ（創作意図）

案一

○ 用いる用具・用材と、期待する効果（込めたい思いを考慮する）

筆…

紙…

墨…

その他…



年 組（ ）

2 意見交換を踏まえて、よかった点と見直そうと感じた点を整理しよう。

良かった点／

見直しが必要だと感じた点／

3 よりよい書作品となるよう、案一を具体的に見直そう。

案二

○ 用いる用具・用材と、期待する効果

筆…

紙…

墨…

その他…

○ 案一からの変更のポイント（なぜ変更したのか、理由を明確にする）



芸術科（書道） 事例3（書道Ⅰ）

キーワード 指導と評価の計画から評価の総括まで、「主体的に学習に取り組む態度」の評価、ICTの活用

単元名

「漢字の書」の臨書
～構想から作品完成まで～

内容のまとめり

「A表現」(2) 漢字の書 及び〔共通事項〕(1),
「B鑑賞」(1)

1 単元の目標

(1) 「知識及び技能」

- ・書体や書風と用筆・運筆との関わりについて理解する。【「A表現」(2) イ(イ)】
- ・線質，字形，構成等の要素と表現効果や風趣との関わりについて理解する。【「B鑑賞」イ(ア)】
- ・古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能を身に付ける。【「A表現」(2) ウ(ア)】

(2) 「思考力，判断力，表現力等」

- ・知識や技能を得たり生かしたりしながら，古典の書体や書風に即した用筆・運筆，字形，全体の構成について構想し工夫する。【「A表現」(2) ア(ア)】
- ・鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら，作品の価値とその根拠について考え，書のよさや美しさを味わい捉える。【「B鑑賞」ア(ア)】

(3) 「学びに向かう力，人間性等」

自身の表現の意図に基づき，漢字の書の特質に基づいて表現することや，書のよさや美しさを感受し，作品や書の意味や価値等について考えながら鑑賞することに主体的に取り組み，書に対する感性を豊かにし，書を愛好する心情を養う。

2 単元の評価規準 ※ 国研資料 p. 33, p. 38 参照

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・用筆・運筆から生み出される書の表現性とその表現効果との関わりについて理解している。 ・書を構成する要素について，それら相互の関連がもたらす働きと関わらせて理解している。 ・線質，字形，構成等の要素と表現効果や風趣との関わりについて理解している。 ・書体や書風と用筆・運筆との関わりについて理解している。 ・古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・知識や技能を得たり生かしたりしながら，古典の書体や書風に即した用筆・運筆，字形，全体の構成について構想し工夫している。 ・鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら，作品の価値とその根拠について考え，書のよさや美しさを味わい捉えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に表現の幅広い学習活動に粘り強く取り組もうとしている。 ・書や作品の意味や価値について自己調整しながら主体的に鑑賞の幅広い学習活動に取り組もうとしている。

3 指導と評価の計画（概要）

学習活動		知識・技能		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
		知	技	思	態表	態鑑	
展開1	観点の確認①	↓	↓	↓	↓	↓	
	構想・工夫①						
	作品制作①-1						
	鑑賞①						
	意見交換①						
	構想・工夫の見直し①						
	作品制作①-2						◎
	学習の振り返り①						
展開2	観点の確認②	↓	↓	↓	↓	↓	
	構想・工夫②						
	作品制作②-1						
	鑑賞②						
	意見交換②						
	構想・工夫の見直し②						◎
	作品制作②-2						● 評価場面
	学習の振り返り②						● 評価場面
展開3	観点の確認③	↓	↓	↓	↓	↓	
	構想・工夫③						
	作品制作③-1						
	鑑賞③						● 評価場面
	意見交換③						
	構想・工夫の見直し③						● 評価場面
	作品制作③-2						
	学習の振り返り③						
展開4	観点の確認④	↓	↓	↓	↓	↓	
	構想・工夫④						
	作品制作④-1						
	鑑賞④						● 評価場面
	意見交換④						
	構想・工夫の見直し④						● 評価場面
	作品制作④-2						◎
	学習の振り返り④						
	最終自己評価						◎
	単元の学習のまとめ						● 評価場面

● 評価場面 : 評価を記録に残す場面 ◎: 指導に生かす評価を重点的に行う場面 矢印: 評価の継続性

4 指導と評価の計画（全8時間）

展開 (時数)	ねらい・学習活動	評価の方法				
		観	活	様	子	ワ
		観活動の様子 ワワークシート 作作品 鑑表は記録に残す評価				
		知	技	思	態表	態鑑
1 (2)	<p>○観点の確認①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既習の観点を確認し，新たな観点を理解する。 ・用筆・運筆と表現効果 (以下，観点の確認①～④は共通) <p>○構想・工夫①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・九成宮醜銘の歴史的背景やその価値を理解し，その特徴を表現するための「用筆・運筆」(仮説)を設定する。(ペアまたはグループ) <p>○作品制作①-1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仮説をもとに臨書する。(作品①-1) <p>○鑑賞①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他者との作品の共有・相互鑑賞，教師の範書動画等の鑑賞を通して，自分たちの仮説が正しかったか考える。(ペアまたはグループ) <p>○意見交換①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作品を他者と共有・相互鑑賞し，相互批評・意見交換をする。(ペアまたはグループ) <p>○構想・工夫の見直し①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特徴が表現できたか話し合い，教師の範書を参考に仮説を修正する。(ペアまたはグループ) <p>○作品制作①-2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・修正した仮説をもとに臨書する。(作品①-2) <p>○学習の振り返り①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・臨書した作品①-1と①-2とを比較して気付いたことや反省点，次回に向けての改善点等をまとめる。 					
		教師や生徒の動画を視聴するなど ICT を効果的に活用する。以下展開2～4も同様。				
			作			
2 (2)	<p>○観点の確認②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・線質による表現の特徴 <p>○構想・工夫②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・孔子廟堂碑の歴史的背景やその価値を理解し，その特徴を表現するための「用筆・運筆」(仮説)を設定する。(ペアまたはグループ) <p>○作品制作②-1</p> <p>○鑑賞②</p> <p>○意見交換②</p> <p>○構想・工夫の見直し②</p> <p>「思考・判断・表現」</p> <p>○作品制作②-2</p> <p>○学習の振り返り②</p>			ワ表		
			作			ワ表

3 (2)	<p>○観点の確認③ ・抑揚・遅速と表現効果</p> <p>○構想・工夫③ ・雁塔聖教序の歴史的背景やその価値を理解し、その特徴を表現するための「用筆・運筆」(仮説)を設定する。(ペアまたはグループ)</p> <p>○作品制作③-1</p> <p>○鑑賞③</p> <p>○意見交換③</p> <p>○構想・工夫の見直し③</p> <p>○作品制作③-2</p> <p>○学習の振り返り③</p>	<p>ワ表</p>	<p>作表</p>			
4 (2)	<p>○観点の確認④ ・字形(背勢・向勢等)と表現効果</p> <p>○構想・工夫④ ・顔氏家廟碑の歴史的背景やその価値を理解し、その特徴を表現するための「用筆・運筆」(仮説)を設定する。(ペアまたはグループ)</p> <p>○作品制作④-1</p> <p>○鑑賞④</p> <p>○意見交換④</p> <p>○構想・工夫の見直し④</p> <p>○作品制作④-2</p> <p>○学習の振り返り④</p> <p>○最終自己評価 ・これまでの活動を振り返り、作品の変化や表現の工夫の経緯、自身が思考を積み重ねてきた過程、身に付けた知識や技能を改めて確認し、見方・考え方を働かせて一連の活動について自己評価を行う。</p> <p>○単元の学習のまとめ ・これまでの学習を振り返り、「漢字の書」での学習内容、その中で併せて学習してきた[共通事項]の内容について改めて確認するとともに、作品の意味や価値について考え、書や文字の生活や社会との関わりについて考える。 ・「漢字の書」の学習を通して身に付けた知識や技能、「感じたことや捉えたこと、考え方」を生活や社会の中でいかに生かすことができるかについて、主体的に考える。</p>	<p>観鑑</p>	<p>作</p>	<p>ワ鑑</p>	<p>観ワ</p>	<p>ワ鑑</p>

5 本事例における観点別学習状況の判断の例

評価の観点と単元の評価規準		○「おおむね満足できる」状況（B）の例 ◎「十分満足できる」状況（A）の例 ◆「努力を要する」状況（C）と判断される生徒への手立て	
知識・技能	知	<p>・書体や書風と用筆・運筆との関わりについて理解している。【表現】</p> <p>・線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わりについて理解している。【鑑賞】</p>	<p>○用筆・運筆と表現効果との関わりについて理解し、活動の中で身に付けた知識を表現の活動に活用している。</p> <p>◎書体や書風と用筆・運筆と表現効果との関わりについて深く理解し、本学習活動の中で身に付けた知識を表現活動の中で適切に活用している。</p> <p>◆学習活動を振り返らせ、用筆や運筆によって線質が変化することを確認し、今回の学習について実感的に理解できるよう支援する。</p> <p>○線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わりについて理解して表現及び鑑賞の活動で活用している。</p> <p>◎線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わりについて深く理解し、表現及び鑑賞の学習活動の中で身に付けた知識を適切に活用している。</p> <p>◆学習活動を振り返らせ、身に付けてきた知識について確認したり、意見交換や構想・工夫の記録から自ら行った表現の工夫を確認したりすることで、実感的に理解できるよう支援する。</p>
	技	<p>・古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能を身に付けている。</p>	<p>○古典に基づく表現を、自身の表現の意図及び構想に基づき表現を工夫し表している。</p> <p>◎古典に基づく効果的な表現を身に付け、自身の表現の意図及び構想に基づき適切に表現を工夫し表すことができている。</p> <p>◆具体例を示して表現法を確認させ、その技能を活用し表現を工夫して表すということを実感的に捉え、表すことができるよう支援する。</p>
思考・判断・表現	思	<p>・知識や技能を得たり生かしたりしながら、古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し工夫している。【表現】</p>	<p>○これまでの学習活動の中で得た知識や技能を働かせて、自身の表現の意図に基づき学習活動を見直し、言語化している。</p> <p>◎これまでの学習活動の中で身に付けた知識や技能を得たり生かしたりしながら、自身の感じ方や捉え方、考え方を総合的・統合的に働かせて、自身の表現の意図に基づき学習活動を見直し、適切に言語化することができている。</p> <p>◆考える手立てや観点を示したり、言語活動を通して他者の意見を参考にしたりするなどして、これまでの学習活動の中で身に付けた知識や技能と関連させながら、自身の学習活動の見直しに生かすことができるよう支援する。</p>
		<p>・鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら、作品の価値とその根拠について考え、書よさや美しさを味わい捉えている。【鑑賞】</p>	<p>○鑑賞に関わる知識を自身ならびに他者の作品の表現の工夫について根拠をもって味わい捉え、言語化している。</p> <p>◎鑑賞活動を通して鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら、自身ならびに他者の作品の表現の工夫について、そのよさや美しさを実感的に感受し、作品の意味や価値について根拠をもって味わい捉え、生活や社会における書の効用について深く考え、適切に言語化することができている。</p> <p>◆考える手立てや観点を示したり、言語活動を通して他者の意見を参考にしたりするなどして、これまでの学習活動の中で</p>

			身に付けた知識や技能と関連させながら、書のよさや美しさ 感受し、作品の意味や価値について味わい捉え、生活や社会 における書の効用について深く考えられるよう支援する。
主体的に学習に取り組む態度	態 表	・主体的に表現の幅広い学習活動に粘り強く 取り組もうとしている。	○学習活動の中で身に付けた知識・技能を活用し、自らの表現 の意図に基づき、振り返ったり見通しを立てたりしながら構 想・工夫を見直し取り組もうとしている。 ◎学習活動の中で身に付けた知識・技能を活用し、書の伝統と 文化の価値、書や文字の意味や価値について深く考えるとと もに、自らの表現の意図に基づき、振り返ったり見通しを立 てたりしながら構想・工夫を見直し、粘り強く作品制作に取 り組もうとしている。 ◆学習活動を振り返らせ、参考とする古典、名筆や現代の書の 表現の工夫を確認したり、構想・工夫の記録から捉え直した りすることで、身に付けてきた知識・技能を活用して表現を 工夫できるよう支援する。
	態 鑑	・書や作品の意味や価値について自己調整し ながら主体的に鑑賞の 幅広い学習活動に取り 組もうとしている。	○書や文字の意味や価値について学習を振り返ったり見通し を立てたりしながら鑑賞活動に取り組もうとしている。 ◎学習活動の中で身に付けた知識・技能を活用し、書の伝統と 文化の価値、書や文字の意味や価値について深く考えるとと もに、鑑賞を通しての学習を振り返ったり見通しを立てたり しながら、主体的に鑑賞活動に取り組もうとしている。 ◆学習を通して鑑賞した古典や自らが制作してきた作品を振 り返らせることで、作品や書のよさや美しさを感じたり、 書の伝統と文化の価値、書や文字の意味や価値について考 えたりできるよう支援する。

6 学習活動例での見取りと支援の例

《展開1 評価例》

〈指導に生かす評価（例）〉

思表 生徒作品をグループ鑑賞で互いの意見を交換し合う状況を見取る。既得の知識・観点や新たに得た知識・観点を生かして考え、自己評価と構想の見直しに取り組んだりしている状況を、意見交換での発言やワークシートの記述から見取る。本展開での活動例では、教師の支援不足、または展開1ということもあり、グループ内鑑賞での意見交換が活発ではなかったものの、互いの意見を構想・工夫の見直しに生かそうとしている状況が、ワークシートの記述から見とれた。

〈支援・助言（例）〉

鑑賞が苦手な生徒に対しては、構想・工夫①で見いだした古典の特徴と、その特徴を表現するために考えた用筆・運筆を確認し、その用筆・運筆で臨書した作品について古典の特徴が表現されているかどうかを参考とする古典を示して比較させ、用筆・運筆と表現効果との関係に気付かせる。

※以下、展開2～4の〈指導に生かす評価（例）〉・〈支援・助言（例）〉については省略する。

《展開2 評価例》

〈記録に残す評価（例）〉

思表 指導と評価

・他者との意見交換、見方・考え方の交流に取り組むことを通して「感じたことや捉えたこと」を構想・工夫の見直しに生かせるよう指導し、その活動の過程で鑑賞と意見交換を生かして構想の見直しを行い、新たな観点で構想・工夫を再構築しているかを見取り評価する。

【ワークシート、活動の様子】

【評価A（例）】

【ワークシート記入（例）】

作品制作②-1では起筆・収筆でしっかり筆圧をかけてしまったため角がはっきり出てしまった。意見交換で友人からの意見を参考に見直したところ確かに筆圧をかけすぎていることがわかったので、次は筆圧をあまりかけ過ぎずに送筆するよう心掛けたい。

・意見交換を生かして自分の作品を振り返り、適切に構想・工夫を再構築している様子がワークシートから見とれたのでAとした。

【評価B（例）】

【ワークシート記入（例）】

作品制作②-1では押しすぎてしまったので角が出てしまったと友人から言われたので、次回は筆圧をあまりかけないように見直そうと思った。

・意見交換を生かして構想・工夫を再構築している様子が見取れたのでBとし、友人の意見を参考にして自分の作品を振り返り、納得してから構想・工夫を見直すよう助言した。

〈記録に残す評価（例）〉

態表 指導と評価

・意図に基づく構想の実現に向けて表現を工夫するよう指導し、その実現に向けて粘り強く取り組もうとしている態度を見取る。【活動の様子】【ワークシート】

【評価A（例）】

【ワークシート記入（例）】

はじめは仮説が間違っていたために表現できなかったが、グループで意見交換をして構想・工夫を見直した結果、特徴を表現することができた。今回の活動で用筆・運筆の違いで表現が変化することがわかった。

・表現の工夫について自らの表現の意図に基づき、振り返ったり見通しを立てたりしながら構想・工夫を見直し、粘り強く取り組もうとしている様子がワークシートから見とれたのでAとした。

《展開3 評価例》

〈記録に残す評価（例）〉

知表 指導と評価

・表現性や表現効果について知識を活用して分析的に捉えるよう指導し、楷書体の用筆・運筆によって多様な書の美が表現できることを理解しているかを見取り評価する。【活動の様子】

【ワークシート】

【評価A（例）】

【ワークシート記入（例）】

雁塔聖教序は軽やかな筆致で書かれていて、線に抑揚があり、起筆・送筆・収筆の過程で筆圧が変化していることがわかった。

・書の表現性や表現効果について分析的に捉え、用筆・運筆による多様な表現について深く理解し、適切に言語化して表現していることがワークシートから見取れたのでAとした。

【評価B（例）】

【ワークシート記入（例）】

全体的に細く見えたが、他の人の作品を鑑賞して線の真ん中で細くなることがわかった。

・用筆・運筆による表現効果について理解していることがワークシートから見とれたのでBとし、ワークシートの記述について適切に言語化して表現するよう指導・助言した。

〈記録に残す評価（例）〉

技 指導と評価

・課題とする用筆・運筆法を理解して、身に付けた技能を適切に活用するとともに、効果的に工夫して表せるよう指導し、その活動の過程で技能を身に付け、修正した構想に基づいて効果的に表現しているかを見取り評価する。【作品、活動の様子】

【評価A（例）】

・熱心に書表現の活動に取り組み、完成度が高く、構想・工夫の見直しを繰り返して筆圧や速度について正しく修正し、身に付けた技能を活用して表現を工夫して適切に表していることが見とれたのでAとした。

【評価B（例）】

・書表現の活動の中で、構想・工夫の見直しで筆圧や速度について修正し、身に付けた技能を活用して表現を工夫していることが作品から見取れたが、完成度については優れたものまでは至らなかったためBとした。

《展開4 評価例》

〈記録に残す評価（例）〉

知鑑 指導と評価

・新たに得た知識・用語を使って説明するよう指導し、楷書体の用筆・運筆の組み合わせによって多様な書の美が表現できることに気づき、知識を活用して表現性や表現効果を捉えているかを見取り評価する。【活動の様子】

【評価A（例）】

・鑑賞会で背勢・向勢や送筆での筆圧などについて知識や用語を適切に使って話し合っているところが活動の様子から見とれたのでAとした。

〈記録に残す評価（例）〉

思鑑 指導と評価

・新たに得た鑑賞に関わる知識を生かして互いの作品を鑑賞し、その良さや改善点について根拠に基づいて意見交換するよう指導し、その活動において根拠に基づいて鑑賞し適切な用語を用いて言語化しているかを見取り評価する。【活動の様子】【ワークシート】

【評価A（例）】

【ワークシート記入（例）】

【Aさんの作品】 字形が向勢で力強い線で書かれているので参考になった。

【Bさんの作品】 線が弱く背勢になっているので、もっと筆圧をかけて力強く書いてみてはどうかと思った。

・根拠に基づいて鑑賞し、適切な用語を用いて言語化していることが活動の様子やワークシートから見とれたのでAとした。

〈記録に残す評価（例）〉

態鑑 指導と評価

・これまでの活動を通して鑑賞・評価することの意義に気付くとともに、鑑賞活動を通じて自らの表現を見出すことの楽しさや大切さを実感することで、新たに芸術科書道の学習に取り組む意欲を自ら高められるよう指導し、作品や鑑賞することの意味や価値について主体的に考えようとする態度を見取り評価する。【ワークシート、活動の様子】

【評価A（例）】

【ワークシート記入（例）】

ただ書くだけでなく、書いた作品を鑑賞し意見交換をすることで改善点を見つけることができたので、鑑賞活動が表現の活動に欠かせないことを感じた。今後は表現活動の後に自分の作品について鑑賞して振り返り、自分で改善点を見つけられるようにしたいと思う。

・鑑賞・評価することの意義を実感し、意欲をもって主体的に取り組もうとする態度がワークシートから見とれたのでAとした。

7 観点別学習評価の総括

(1) 観点別学習状況の総括の具体

〈記録に残す評価の総括（例）〉

知識・技能		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
知識	技能		表現における主体的に学習に取り組む態度	鑑賞における主体的に学習に取り組む態度
記①表	記②鑑	記録①表	記①表	記②鑑
B	A	A	A	A
A		A	A	A
A		A	A	

(2) 本事例における観点別学習状況の評価の総括（例）

評価規準	知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
	知	技	思			態表	態鑑	
主な学習活動	鑑賞（知識の活用）	意見交換（知識の活用）	作品制作	構想・工夫（再構築）	意見交換（工夫の言語化）	単元のまとめ（自己評価）	構想・工夫（表現の工夫）	単元の学習のまとめ
展開1			・ a ・ A					
展開2			・ b ・ B	表			表	
展開3		表	・ c 表 C					
展開4	鑑		・ d ・ D		鑑	・		鑑
生徒い	A		A	A			A	A
	A						A	
生徒ろ	B		A	B			A	C
	A						B	

※ 「・」は、指導の改善に生かす評価。表 鑑 は、記録に残す評価。

※ 観点別評価の総括の仕方については、評価結果のA, B, Cの組み合わせを基に評価する場合、評価結果のA, B, Cの数を基に評価する場合、評価結果のA, B, Cを数値に置き換えて評価する場合など、各学校が実情等に応じて予め定めておくこととなるが、本事例においては、「知識・技能」では技能を重視して評価すると予め決めていたので技能を重視してAとし、「主体的に学習に取り組む態度」については「A表現」と「B鑑賞」を同等に評価すると予め決めていたので、その平均としてBとした。

※ 本事例において「作品制作」は、すべての展開を通じて実施し、継続して見取り授業の改善に生かすこととした。また、「A表現」に関する項目は、展開②③で重点的に見取り評価することとし、「B鑑賞」に関する項目は展開④で重点的に見取り評価することとした。

※ 本事例で「a」「A」等を付した活動は，身に付けさせたい資質・能力の育成状況を把握・評価するために比較等して見取る一連の活動を示し，「a（アルファベット小文字）」は育成の過程，「A（アルファベット大文字）」は成果（記録に残す評価の対象）を示している。

時間をかけて行う活動等の記録は，評価の総括のためだけでなく，学習の過程において生徒が自分の学習の深まりを実感的に振り返り，また，振り返ったことを効果的に活用できるよう，作品を画像データとして蓄積したり，1枚のワークシートに継続して記録させたりする。

1 課題設定

気付いた特徴を話し合い、課題を設定しよう。

--

2 仮説①
構想・工夫

特徴を表現するための用筆・運筆を考えよう。

--

3 検証①

表現できた部分と、できなかった部分を確認しよう。

(1) 自己評価

線質, 字形, 構成 <small>(露鋒・蔵鋒, 直筆・側筆, 背勢・向勢, 字間・行間・余白, 文字構成・全体構成など)</small>	変化, 律動, 書風 <small>(文字の大小・太細, 遅速・緩急・筆圧・リズム, 古典に基づく書風など)</small>	性情, 調和, 風趣 <small>(思い・イメージ, 造形性に基づく調和・言葉と表現の調和, 味わい・趣など)</small>

(2) 意見交換

4 仮説②

自己評価や意見交換を参考にして構想・工夫を見直そう。

構想・工夫の見直し

--

5 検証②

意見交換の結果を踏まえて検証結果をまとめよう。

--

6 学習の振り返り

今回の学習について、自分の活動を振り返ろう。

--

7 活動の改善点

次回に向けて、どんなところを改善すべきかまとめよう。

--

※ 今回は1枚のワークシートにしたが、実際の授業では複数枚も考えられる。

芸術科（書道） 事例4（書道Ⅰ）

キーワード 指導と評価の計画から評価の総括まで、「主体的に学習に取り組む態度」の評価、ICTの活用

単元名

「漢字の書 篆刻」
～構想から作品完成まで～

内容のまとめり（複合単元）

「A表現」(2) 漢字の書 及び〔共通事項〕(1),
「B鑑賞」(1)

1 単元の目標

(1) 「知識及び技能」

- ・用具・用材の特徴と表現効果との関わりについて理解する。【「A表現」(2) イ(ア)】
- ・線質，字形，構成等の要素と表現効果や風趣との関わりについて理解する。【「B鑑賞」イ(ア)】
- ・古典の線質，字形や構成を生かした表現の技能を身に付ける。【「A表現」(2) ウ(イ)】

(2) 「思考力，判断力，表現力等」

- ・意図に基づいた表現について構想し工夫する。【「A表現」(2) ア(イ)】
- ・鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら，作品の価値とその根拠について考え，書のよさや美しさを味わい捉える。【「B鑑賞」ア(ア)】

(3) 「学びに向かう力，人間性等」

自身の表現の意図に基づき，線質，字形の特質に基づいて表現することや，書のよさや美しさを感じ，作品や書の意味や価値等について考えながら鑑賞することに主体的に取り組み，書に対する感性を豊かにし，書を愛好する心情を養う。

2 単元の評価規準 ※ 国研資料 p. 33, p. 38 参照

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・用筆・運筆から生み出される書の表現性とその表現効果との関わりについて理解している。 ・書を構成する要素について，それら相互の関連がもたらす働きと関わらせて理解している。 <ul style="list-style-type: none"> ・用具・用材の特徴と表現効果との関わりについて理解している。 <p>線質，字形，構成等の要素と表現効果や風趣との関わりについて理解している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・古典の線質，字形や構成を生かした表現の技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・意図に基づいた表現について構想し工夫している。 ・鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら，作品の価値とその根拠について考え，書のよさや美しさを味わい捉えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に表現の幅広い学習活動に粘り強く取り組もうとしている。 ・書や作品の意味や価値について自己調整しながら主体的に鑑賞の幅広い学習活動に取り組もうとしている。

3 指導と評価の計画（概要）

学習活動		知識・技能		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
		知	技	思	態表	態鑑	
展開1	篆刻の知識と学習活動の確認	↓	↓	↓	↓	↓	
	題材の選定と書体の確認						
	観点の確認①						
	構想・工夫①						
	鑑賞①						● 評価場面
	構想・工夫の見直し①						○
	学習の振り返り①						● 評価場面
展開2	観点の確認②	↓	○	↓	↓	↓	
	作品制作①						
	鑑賞②						● 評価場面
	構想・工夫の見直し②						● 評価場面
	学習の振り返り②						○
展開3	観点の確認③	↓	○	↓	↓	↓	
	作品制作②						
	学習の振り返り③						
展開4	観点の確認④	↓	○	↓	↓	↓	
	作品制作③						● 評価場面
	鑑賞③						○
	学習の振り返り④						○
	最終自己評価						● 評価場面
	単元の学習のまとめ						● 評価場面

● 評価場面 ; 評価を記録に残す場面 ○: 指導に生かす評価を重点的に行う場面 矢印: 評価の継続性

4 指導と評価の計画（全8時間）

展開 (時数)	ねらい・学習活動	評価の方法 観活動の様子 ワワークシート 作作品 鑑表 は記録に残す評価				
		知	技	思	態表	態鑑
1 (2)	<p>○篆刻の知識と学習活動の確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ・篆刻の歴史や芸術性について学習し、今後学習活動の手順を確認する。 <p>○題材の選定と書体の確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ・題材は2字以上の氏名印であることと、文字の組み合わせ方とを確認して題材を決定し、字書で篆書体を調べる。 <p>○観点の確認①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既習の観点を確認し、新たな観点を理解する。 ・文字の構成と余白との関係 ・字形や線質の調和 ・朱文・白文 <p>(以下、観点の確認①～④は共通)</p> <p>○構想・工夫①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朱文・白文いずれかを選択し、印面全体に文字を構成することと、複数文字の調和を意識して構想し、字形を工夫する。 <p>○鑑賞①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数人のグループでどんなところを工夫したかを説明しながらデザインを紹介して互いの意見を交換し合う。 <p>○構想・工夫の見直し①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意見交換したことをまとめ、再度構想を工夫する。 <p>○学習の振り返り①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時の活動を振り返り、次時の活動目標を記録する。 					
						ICTを効果的に活用して観点を確認する。以下観点の確認②～④も同様
		ワ鑑				
				観ワ		
		ワ表				
2 (2)	<p>○観点の確認②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朱文・白文と線の太細 <p>○作品制作①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・印稿（実物大の完成図）を作成する。 <p>○鑑賞②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作成した印稿をグループで鑑賞し、改善点を確認する。 <p>○構想工夫の見直し②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループで得た改善点を参考にして印稿を修正する。 <p>○学習の振り返り②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時の活動を振り返り、次時の活動目標を記録する。 		作			
					ワ鑑	
					ワ表	
					観ワ	

<p>3 (2)</p>	<p>○観点の確認③ ・黒色（墨＝刻る部分）の割合</p> <p>○作品制作② ・印面を磨き，鏡を使って布字（逆に移す）する。</p> <p>○学習の振り返り③ ・本時の活動を振り返り，次時の活動目標を記録する。</p>		<p>作</p>	<p>観</p>		
<p>4 (2)</p>	<p>○観点の確認④ ・運刀法と線質</p> <p>○作品制作③ ・布字を修正する。 ・印刀の持ち方や運刀法を確認して刻る。 ・試印し補刀して完成させて印譜を作成する。</p> <p>○鑑賞③ ・印譜に制作意図を添えて全員で鑑賞し，意見交換を行う。 ・鑑賞会での意見を参考にして自分の考えを振り返り，改善点をまとめる。</p> <p>○学習の振り返り④ ・本時の活動を振り返る。</p> <p>○最終自己評価 ・これまでの活動を振り返り，作品の変化や表現の工夫の経緯，自身が思考を積み重ねてきた過程，身に付けた知識や技能を改めて確認し，一連の活動について自己評価を行う。</p> <p>○単元の学習のまとめ ・これまでの学習を振り返り，「篆刻」の学習内容，その中で併せて学習してきた[共通事項]の内容について改めて確認するとともに，作品の意味や価値について考え，書や文字の生活や社会との関わりについて考える。 ・「篆刻」の学習を通して身に付けた知識や技能，見方・考え方を生活や社会の中でいかに生かすことができるかについて，主体的に考える。</p>		<p>作表</p>	<p>観</p>	<p>表</p>	<p>鑑</p>

5 本事例における観点別学習状況の判断の例

評価の観点と単元の評価規準		○「おおむね満足できる」状況（B）の例 ◎「十分満足できる」状況（A）の例 ◆「努力を要する」状況（C）と判断される生徒への手立て	
知識・技能	知	<p>・用具・用材の特徴と表現効果との関わりについて理解している。【表現】</p> <p>・線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わりについて理解している。【鑑賞】</p>	<p>○運刀と表現効果との関わりについて理解し、表現性や表現効果について新たな観点に基づいて自らの作品の表現に生かそうとしている。</p> <p>◎用具・用材と表現効果との関わりについて深く理解し、表現性や表現効果について新たな観点に基づいて自らの作品を分析的に捉え、表現に生かそうとしている。</p> <p>◆学習活動を振り返らせ、用具・用材によって線質が変化することを確認し、今回の学習について実感的に理解できるよう支援する。</p> <p>○表現及び鑑賞の学習活動を通して、線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わりについて理解している。</p> <p>◎表現及び鑑賞の学習活動の中で身に付けた知識を活用して、線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わりについて深く理解している。</p> <p>◆学習活動を振り返らせ、身に付けてきた知識について確認したり、意見交換や構想・工夫の記録から自ら行った表現の工夫を確認したりすることで、実感的に理解できるよう支援する。</p>
	技	<p>・古典の線質、字形や構成を生かした表現の技能を身に付けている。</p>	<p>○古典に基づく効果的な表現を理解して、自身の表現の意図及び構想に基づいて表現を工夫している。</p> <p>◎古典に基づく効果的な表現を深く身に付けており、自身の表現の意図及び構想に基づき表現を工夫し表すことができている。</p> <p>◆具体例を示して表現法を確認させ、その技能を活用し表現を工夫して表すということを実感的に捉え、表すことができるよう支援する。</p>
思考・判断・表現	<p>・意図に基づいた表現について構想し工夫している。【表現】</p> <p>・鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら、作品の価値とその根拠について考え、書よさや美しさを味わい捉えている。【鑑賞】</p>	<p>○これまでの学習活動の中で得た知識や技能を基に、自身の表現の意図に基づき学習活動を見直し、言語化している。</p> <p>◎これまでの学習活動の中で得た知識や技能を得たり生かしたりしながら、自身の感じ方や捉え方、考え方を総合的・統合的に働かせて、自身の表現の意図に基づき学習活動を深く見直し、適切に言語化することができている。</p> <p>◆考える手立てや観点を示したり、言語活動を通して他者の意見を参考にしたりするなどして、これまでの学習活動の中で身に付けた知識や技能と関連させながら、自身の学習活動の見直しに生かすことができるよう支援する。</p> <p>○鑑賞活動を通して自身ならびに他者の作品の表現の工夫について、作品の意味や価値について根拠をもって味わい捉え、適切に言語化している。</p> <p>◎鑑賞活動を通して鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら、自身ならびに他者の作品の表現の工夫について、そのよさや美しさを実感的に感受し、作品の意味や価値について根拠をもって味わい捉え、生活や社会における書の効用に</p>	

			<p>ついて深く考え、適切に言語化することができている。</p> <p>◆考える手立てや観点を示したり、言語活動を通して他者の意見を参考にしたりするなどして、これまでの学習活動の中で身に付けた知識や技能と関連させながら、書のよさや美しさ感受し、作品の意味や価値について味わい捉え、生活や社会における書の効用について考えられるよう支援する。</p>
主体的に学習に取り組む態度	態 表	<p>・主体的に表現の幅広い学習活動に粘り強く取り組もうとしている。</p>	<p>○学習活動の中で身に付けた知識・技能を活用し、自らの表現の意図に基づき、振り返ったり見通しを立てたりしながら構想・工夫を見直して作品制作に取り組もうとしている。</p> <p>◎学習活動の中で身に付けた知識・技能を活用し、書の伝統と文化の価値、書や文字の意味や価値について深く考えるとともに、主体的に自らの見方・考え方を働かせ広げ、自らの表現の意図に基づき、振り返ったり見通しを立てたりしながら構想・工夫を見直し、粘り強く作品制作に取り組もうとしている。</p> <p>◆学習活動を振り返らせ、参考とする古典、名筆や現代の書の表現の工夫を確認したり、構想・工夫の記録から捉え直したりすることで、身に付けてきた知識・技能を活用して表現を工夫できるよう支援する。</p>
	態 鑑	<p>・書や作品の意味や価値について自己調整しながら主体的に鑑賞の幅広い学習活動に取り組もうとしている。</p>	<p>○学習活動の中で身に付けた知識・技能を活用し、鑑賞学習を振り返って主体的に鑑賞活動に取り組もうとしている。</p> <p>◎学習活動の中で身に付けた知識・技能を活用し、書の伝統と文化の価値、書や文字の意味や価値について深く考えるとともに、鑑賞を通しての学習を振り返ったり見通しを立てたりしながら、主体的に鑑賞活動に取り組もうとしている。</p> <p>◆学習を通して鑑賞した古典や自らが制作してきた作品を振り返らせることで、作品や書のよさや美しさを感じたり、書の伝統と文化の価値、書や文字の意味や価値について考えたりできるよう支援する。</p>

6 学習活動例での見取りと支援の例

《展開1 評価(例)》

〈指導に生かす評価(例)〉

思表 観点の確認を生かして構想・工夫している状況を見取る。既得の知識・観点や新たに得た知識・観点を生かして考え、構想・工夫に取り組んだりしている状況を、活動の様子やワークシートの記述から見取る。

本展開での活動例では、生徒の篆刻についての知識不足があったが、観点を生かして構想・工夫しようとしている状況がワークシート等から見取れたので、ICT等を活用して紹介したことが生徒の理解に繋がったと感じた。

〈支援・助言(例)〉

構想・工夫が苦手な生徒に対して、余白については印面全体に文字を構成している事例を、文字の調和については転折や口の形を統一している事例を参考とする古典を示して文字の構成と余白との関係や字形や線質の調和に気付かせる。

※以下、展開2～4の〈指導に生かす評価(例)〉・〈支援・助言(例)〉については省略する。

〈記録に残す評価(例)〉

「知識・技能」

知鑑 指導と評価

・構想と字形について工夫した点を紹介し合い、観点をもとにして意見交換を行うよう指導し、知識を活用して表現性や表現効果を捉えて意見交換を行っているかを見取り、その状況を評価する。【ワークシート、活動の様子】

【評価A(例)】

【ワークシート記入(例)】

Aさんの草稿

印面全体に文字が構成されていて、それぞれの文字も転折や口の形が統一されていて2文字が調和して表現されている。

Bさんの草稿

印面に対して文字が小さく中央に余白があるので全体構成について再度見直すべきだと思った。また、それぞれの文字の同じ形の部分が統一されていないので調和に欠ける感じがした。

・観点をもとに知識を活用して表現性や表現効果を深く捉え、適切に言語化していることが活動の様子やワークシートから見とれたのでAとした。

【評価B(例)】

【ワークシート記入(例)】

Aさんの草稿

全体に文字がデザインされていて、形も2文字が調和しているように見えた。

Bさんの草稿

何となく文字が小さく感じた。また、文字の雰囲気は違っているように思えた。

・観点をもとに表現性や表現効果について捉えているのでBとしたが、どうしてそのように感じたのかを分析的に鑑賞し、その根拠についても考えるよう助言した。

〈記録に残す評価（例）〉

「知識・技能」

知表 指導と評価

・新たに得た観点に基づいて印稿を見直し布字するよう指導し、表現性や表現効果について新たな観点に基づいて自らの作品を分析的に捉え、表現に生かそうとしているかを見取り評価する。【活動の様子】【ワークシート】

【評価A（例）】

【ワークシート記入（例）】

意見交換や友人の草稿を鑑賞して自分の草稿が印面に対して小さく、余白が多いことがわかったので、もう少し文字を大きくして印面全体にデザインしようと思った。また、同じ形の部分がまだ統一していないため、調和していないように思うので、力強い作品にするという仕上がりのイメージに合わせて角張った形に統一しようと思う。

・意見交換を生かして文字の構成と余白について適切に見直しており、また字形の調和についても自ら振り返り、正しく修正していることがワークシートから見取れたのでAとした。

【評価B（例）】

【ワークシート記入（例）】

意見交換で自分の草稿が印面に対して小さく、余白が多いことがわかったので、もう少し文字を大きくして印面全体にデザインしようと思った。

・文字の構成と余白との関係については見直しができしたが、字形の調和についてワークシートからは見とれなかったのでBとし、支援・助言した。

《展開2 評価（例）》

〈記録に残す評価（例）〉

「思考・判断・表現」

思鑑 指導と評価

・新たに得た鑑賞に関わる知識を生かして互いの作品を鑑賞し、その良さや改善点について根拠に基づいて意見交換するよう指導し、その活動において根拠に基づいて鑑賞し適切な用語を用いて言語化しているかを見取り評価する。【活動の様子】【ワークシート】

【評価B（例）】

【ワークシート記入（例）】

Aさんの印稿

草稿もよかったが、朱文を意識して細い線で表現していた。

Bさんの印稿

草稿を見直して印面全体に構成し、白文を意識して線を太く表現していた。

・観点を確認して鑑賞していることが活動の様子やワークシートから見とれたのでBとしたが、線質については見とれなかったので指導・助言した。

〈記録に残す評価（例）〉

「思考・判断・表現」

思表 指導と評価

・新たな観点を参考にして、他の生徒の作品や意見交換で得たことを構想・工夫の見直しに生かすよう指導し、その活動の過程で構想・工夫を再構築し、適切に言語化しているかを見取り評価する。【ワークシート、活動の様子】

【評価A（例）】

【ワークシート記入（例）】

グループ鑑賞での意見を参考にして教科書の作品例と比較したところ、線の鋭さがないことに気付いたので、線質について鋭い線で書き直すことにした。また、線の太さが不安定なので、再度修正して統一感を出そうと思う。

・意見交換を生かして自身の作品を振り返り、適切に構想・工夫を再構築してより良い作品にしようとしている様子が活動の様子やワークシートから見取れたのでAとした。

【評価B（例）】

【ワークシート記入（例）】

グループ鑑賞で自分の白文の印稿はよくできていると言われたが、先生から線質についても見直すよう言われたので、鋭い線で書き直そうと思った。

・意見交換や助言を生かして構想・工夫を再構築している様子が活動の様子やワークシートから見とれたのでBとしたが、線の太さに不安定さが見えたので指導・助言した。

《展開4 評価（例）》

〈記録に残す評価（例）〉

「知識・技能」

技 指導と評価

・構想を修正し、新たな観点に基づいて技能を適切に活用するとともに、効果的な線質で表現できるよう指導し、その活動の過程で技能を身に付け、効果的に表しているかを見取り評価する。【活動の様子】【完成作品】

【評価A（例）】

【ワークシート記入（例）】

草稿では余白や字形の調和が不十分だったが、意見交換や先生の助言を生かして印稿を何度も見直して修正を繰り返したり、運刀法にも気を付けたいしてなんとか作品にすることができた。

・意見交換や観点等を踏まえて粘り強く表現の工夫に取り組んでいる様子が活動の様子やワークシートから見取れたのでAとした。

〈記録に残す評価（例）〉

「主体的に学習に取り組む態度」

態表 指導と評価

・本題材の学習を通して意図に基づく構想の実現に向けて意見交換や観点等を踏まえて修正を積み重ねることを記録するよう指導し、その振り返りについて表現の工夫に粘り強く取り組もうとしている態度を見取り評価する。【ワークシート・活動の様子】

【評価A（例）】

【ワークシート記入（例）】

草稿では余白や字形の調和が不十分だったが、意見交換や先生の助言を生かして印稿を何度も見直して修正を繰り返したり、運刀法にも気を付けたいしてなんとか作品にすることができた。

・意見交換や観点等を踏まえて粘り強く表現の工夫に取り組んでいる様子が活動の様子やワークシートから見取れたのでAとした。

〈記録に残す評価（例）〉

「主体的に学習に取り組む態度」

態鑑 指導と評価

・本題材の学習を通して書の美の表現の多様性に気付くとともに、自らの表現を見出すことの楽しさや大切さを実感することで、新たに芸術科書道の学習に取り組む意欲を自ら高められるよう指導し、その活動の過程と作品や表現することの意味や価値について主体的に考えようとする態度を見取り評価する。【ワークシート、活動の様子】

【評価A（例）】

【ワークシート記入（例）】

印は自分を証明するものだという事は知っていたが、書道の作品にも使うということを知ることができた。また、印は篆刻という書道作品の一つであることも知ることができた。今後は自分で書いた書作品に今回制作した印を押してみたいと思った。

・これまでの学習を通して書美の多様性に気付き、今後の書道の学習に取り組む意欲が活動の様子やワークシートから見取れたのでAとした。

7 観点別学習評価の総括

(1) 観点別学習状況の総括の具体

〈記録に残す評価の総括（例）〉

知識・技能		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
知識	技能		表現における主体的に学習に取り組む態度	鑑賞における主体的に学習に取り組む態度
記①表	記②鑑	記①表	記①表	記②鑑
B	A	A	B	A
A				
A		B		A

(2) 本事例における観点別学習状況の評価の総括（例）

評価規準	知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
	知	技	思			態表	態鑑	
主な学習活動	意見交換 (知識の活用)	振り返り (知識の活用)	作品制作	表現の振り返り	構想・工夫 (再構築)	意見交換 (工夫の言語化)	構想・工夫 (表現の工夫)	単元の学習のまとめ
展開1	鑑	表		.	.			
展開2			. a	.	表	鑑		
展開3			. a	.				
展開4			表 A	.			表	鑑
生徒い	A		A	B			A	A
	A						A	
生徒ろ	A		B	C			A	C
	B						B	

※「・」は、指導の改善に生かす評価。表 鑑 は、記録に残す評価。

※ 観点別評価の総括の仕方については、評価結果のA、B、Cの組み合わせを基に評価する場合、評価結果のA、B、Cの数を基に評価する場合、評価結果のA、B、Cを数値に置き換えて評価する場合など、各学校が実情等に応じて予め定めておくこととなるが、本事例における観点別評価の総括については、「知識・技能」では技能を重視して評価すると予め決めていたので技能を重視してBとし、「主体的に学習に取り組む態度」については「A表現」と「B鑑賞」を同等に評価すると予め決めていたので、その平均としてBとした。

※ 本事例での「構想・工夫」「表現の振り返り」は、すべての展開を通じて実施し、継続して見取り授業の改善に生かすこととした。また、「知識」の観点は、展開①で重点的に見取り評価することとし、「構想・工夫」の観点は展開②で重点的に見取り評価することとし、「主体的に学習に取り組む態度」の観点は展開④で重点的に見取り評価することとした。

※ 本事例での「a」及び「A」等を付した活動は、それぞれを比較することで、単元での学習を通してのそれぞれの資質・能力の育成の過程とその成果を、生徒が実感的に捉えるために効果的に活用できるよう、作品を画像データとして蓄積したデジタルポートフォリオを活用したり、1枚のワークシートに継続して記録させたりするなどし、評価の総括のためばかりでなく生徒自身が学習を振り返ったり今後の学習に見通しを立てたりすることに活用することも有効である。

篆刻① 作品草稿

氏名	年	組	番氏名
----	---	---	-----

I 題材の選定と書体の確認

1 氏名印の文字の選び方を確認して文字を決めよう。

--	--	--	--

2 字書で篆書体を調べよう。

--	--	--	--

II 観点の確認①

3 作品草稿を作成するときの観点をまとめよう。

--

III 構想・工夫①

4 白文・朱文のどちらで制作するか決めよう。

A 白文 B 朱文

5 観点を参考にして作品草稿をつくろう。

IV 鑑賞①

6 グループでこのプリントを交換して意見を記録してもらおう。

					鑑賞者からのアドバイス
4	3	2	1		

評価の観点(鑑知)
鑑賞会で互いの意見を適切に交換し合っている。

A・B・C

評価の観点(表知)
構想・工夫の見直しを適切な表現で記録している。

A・B・C

V 構想・工夫の見直し①

7 グループの意見を参考にして、どんなところを見直し修正しようと思うか記録しよう。

--

VI 学習の振り返り①

8 本時の活動で新たに気付いてことや自分で工夫したことを振り返り、次時の活動に向けて目標を立てよう。

--

◎次は印稿(完成図)作成です。是非目標を実現させましょう。

篆刻② 印稿

氏名	年	組	番号

I 観点の確認②

1 観点を記入しよう。

2 新しい観点を生かして前回の改善点を再度見直そう。

II 構想・工夫②

3 改善点を生かして再度草稿をつくろう。

III 作品制作①

4 別紙に印稿(完成図)をつくろう。

IV 鑑賞②

5 グループでこのプリントを交換して意見を記録してもらおう。

鑑賞者	4	3	2	1	鑑賞者からのアドバイス

評価の観点(鑑思)
鑑賞したことを適切に言語化して記録している。

A・B・C

評価の観点(表思)
構想・工夫の見直しを適切に言語化し記録している。

A・B・C

V 構想・工夫の見直し②

6 グループの意見を参考にして、どんなところを見直し修正しようと思うか記録しよう。

VI 学習の振り返り②

7 本時の活動で新たに気付いてことや自分で工夫したことを振り返り、次時の活動に向けて目標を立てよう。

◎ 次は布字(印面に写す)制作です。今回の目標を実現させましょう。

篆刻③ 鑑賞会・学習のまとめ

年
組
番
氏名

評価の観点 (表態)
自らの活動を正しく振り返り、表現の工夫に粘り強く取り組もうとしている。
A・B・C

1 鑑賞会

組	番	さん	①	組	番	さん	②
Aに対する感想				Aに対する感想			
Bに対する感想				Bに対する感想			
自己評価							
A・表現したかったこと							
B・上手くできたこと, 難しかったこと							
組	番	さん	④	組	番	さん	③
Aに対する感想				Aに対する感想			
Bに対する感想				Bに対する感想			

2 最終自己評価 (これまでの学習を振り返ろう)

3 学習のまとめ① (これまでの学習を振り返って「篆刻」についてどのような感想を持ちましたか。)

4 学習のまとめ② (今回の学習活動で身についたことはどのように生かすことができますか。)

【鑑賞のための用語】

1 作品全体から受ける印象

落ち着いた印象

安定感
おおらか
のんびり
やさしい
温雅(オンガ おだやかで上品)
温和(オンワ おだやかでおとなしい)
閑雅(カンガ しずかでみやびやかな趣)
実直(ジッチョク まじめで正直な様子)
清閑(セイカン 清らかで静かなこと)
静閑(セイカン もの静かなこと)
素朴(ソボク 洗練されていないが人に訴えるところがある様子)
沈着(チンチャク 冷静で落ち着いた)
繊細
儂い(ハカナイ)

軽やかな印象

明るい
軽快
のびやか
変化に富む
ゆったり
軽妙(ケイミョウ 軽快でうまみのある様子)
爽快(ソウカイ 心のもやもやがなくなり、さっぱりした快さ)
躍動(ヤクドウ あふれるばかりの元気・若さがある様子)
流麗(リュウレイ のびのびとしてきれいな様子)

2 全体の構成

行書き
疎密の変化
単純
散らし書き

3 文字の形や大きさ

細字
正方形
背勢(反り返った形)
素朴な字形
円勢(起筆や収筆に丸みをもたせた形)
方勢(起筆や収筆を角張らせた形)

激しさや力強い印象

鋭利
気力
豪快
重厚・どっしり
大胆
力強い
堂々
迫力
激しい
気迫(キハク 気力。気概。根気。気魄)
覇気(ハキ 覇者の意気。かちき。ファイト)
雄大(ユウダイ スケールが大きい様子)

その他

- ・ 上品
- ・ 若々しい
- ・ 気韻生動(キインセイドウ 風格・気品の生き生きと満ちあふれていること)
- ・ 枯淡(コタン 俗気や派手さがなく、さっぱりしている)
- ・ 斬新(ザンシン きわだって新しい様子)
- ・ 洒脱(シャダツ 何気なさに脱俗の風格がある様子)
- ・ 清澄(セイチョウ すみきった様子)
- ・ 洗練(センレン 細かなところにも気を配り無駄のない様子)
- ・ 端整(タンセイ 均整がとれていて印象がよい)
- ・ 典麗(テンレイ 正しく美しい。整って美しい)
- ・ 典雅(テンガ 正しくみやびやか)
- ・ 飄々(ヒョウヒョウ つかまえどころがない)
- ・ 品格(ヒンカク すぐれた人間性。見識の高さ)
- ・ 優美(ユウビ 上品で奥ゆかしい美しさがある様子)

複雑
余白
気脈(相互のつながり。気脈の貫通)

大字
大小の変化
縦長
向勢(ふくらんだ形)
横長

骨格(文字を形作る上で最も中心となるもの)

4 線質・用筆法

淡墨(薄い墨色)

伸びやかかな線
丹念に書かれている

遅い

かすれ

緩急(遅いことと速いこと)

強靱(強くて弾力性のある様子)

曲線的 潤渴(うるおいとかすれ)

葳鋒(筆先を内側に包み込むように起筆すること)

濃墨(濃い墨)

線の変化

直線的

直筆(筆を垂直に立てて、穂先が線の真ん中を通るように書くこと)

側筆(筆をやや手前に傾け、穂先が線の外側を通るように書くこと)

にじみ

速い

筆圧(用紙に伝わる手首や指先の力)

筆脈

筆勢(筆の勢い。筆づかい)

筆力(書かれた文字の勢い)

太い線

細い線

抑揚(おさえることとあげること。あげさげ)

露鋒(筆先がみえるように起筆すること)

芸術科（書道） 事例5（書道Ⅰ）

キーワード 指導と評価の計画から評価の総括まで、「主体的に学習に取り組む態度」の評価、ICTの活用

単元名

「仮名の書」の臨書
～導入から臨書まで～

内容のまとめり（複合単元）

「A表現」(3) 仮名の書及び〔共通事項〕(1),
「B鑑賞」(1)

1 単元の目標

(1) 「知識及び技能」

- ・線質や書風と用筆・運筆との関わりについて理解する。【「A表現」(3)イ(イ)】
- ・線質，字形，構成等の要素と表現効果や風趣との関わりについて理解する。
【「B鑑賞」(1)イ(ア)】
- ・古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能を身に付ける。【「A表現」(3)ウ(ア)】

(2) 「思考力，判断力，表現力等」

- ・知識や技能を得たり生かしたりしながら，古典の書風に即した用筆・運筆，字形，全体の構成について構想し工夫する。【「A表現」(3)ア(ア)】
- ・鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら，作品の価値とその根拠について考え，書のよさや美しさを味わい捉える。【「B鑑賞」(1)ア(ア)】

(3) 「学びに向かう力，人間性等」

自身の表現の意図に基づき，仮名の書の特質に基づいて表現することや，書のよさや美しさを感じ、作品や書の意味や価値等について考えながら鑑賞することに主体的に取り組み，書に対する感性を豊かにし，書を愛好する心情を養う。

2 単元の評価規準 ※ 国研資料 p. 33, p. 38 参照

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・用筆・運筆から生み出される書の表現性とその表現効果との関わりについて理解している。 ・書を構成する要素について，それら相互の関連がもたらす働きと関わらせて理解している。 ・線質や書風と用筆・運筆との関わりについて理解している。 ・線質，字形，構成等の要素と表現効果や風趣との関わりについて理解している。 ・古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能を身に付け，表している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・知識や技能を得たり生かしたりしながら，古典の書風に即した用筆・運筆，字形，全体の構成について構想し工夫している。 ・鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら，作品の価値とその根拠について考え，書のよさや美しさを味わい捉えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に表現の幅広い学習活動に粘り強く取り組もうとしている。 ・書や作品の意味や価値について自己調整しながら主体的に鑑賞の幅広い学習活動に取り組もうとしている。

3 指導と評価の計画（概要）

学習活動		知識・技能		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
		知	技	思	態表	態鑑	
展開1	仮名の書への導入	↓	↓	↓	↓	↓	
	鑑賞①						
	観点の確認①						
	構想・工夫①						
	作品制作①-1						
	鑑賞②						
	意見交換①						
	構想・工夫の見直し①						○
	作品制作①-2						○
	学習の振り返り①						
展開2	観点の確認②	↓	↓	↓	↓	↓	
	構想・工夫②						
	作品制作②-1						
	鑑賞③						● 評価場面
	意見交換②						
	構想・工夫の見直し②						○
	作品制作②-2						○
	学習の振り返り②						● 評価場面
展開3	観点の確認③	↓	↓	↓	↓	↓	
	構想・工夫③						
	作品制作③-1						
	鑑賞④						● 評価場面
	意見交換③						
	構想・工夫の見直し③						○
	作品制作③-2						○
	学習の振り返り③						
展開4	観点の確認④	↓	↓	↓	↓	↓	
	構想・工夫④						
	作品制作④-1						
	鑑賞⑤						● 評価場面
	意見交換④						
	構想・工夫の見直し④						○
	作品制作④-2						○
	学習の振り返り④						● 評価場面
	最終自己評価						● 評価場面
単元の学習のまとめ	● 評価場面						

● 評価場面 ; 評価を記録に残す場面 ○: 指導に生かす評価を重点的に行う場面 矢印: 評価の継続性

4 指導と評価の計画（全6時間）

展開 (時数)	ねらい・学習活動	評価の方法				
		観	鑑	表	作	鑑
		観活動の様子 □ ワークシート □ 作品 鑑 表 は記録に残す評価				
		知	技	思	態表	態鑑
1 (2)	○仮名の書への導入（展開1のみ） ・今日の仮名が成立するまでに段階的に発生した仮名の種類と、それぞれの性質について理解する。 ○鑑賞① ・「蓬萊切」を鑑賞し、字形や線がもたらす高い書風を感じ取る。 ・「蓬萊切」の和歌の内容と大意、書風や料紙について理解する。 ○観点の確認① ・既習の観点を確認するとともに、新たな観点について理解する。（観点の確認②～④の活動は共通） ・古筆の線質の特徴「用筆・運筆」 ○構想・工夫① ・古筆の線質の特徴を表現するための「用筆・運筆」（仮説）を設定する。（ペアまたはグループ） ○作品制作①－1 ・横縦の線、転折、円運動、結びなどの基本的な用筆・運筆を練習する。 ○鑑賞② ・ペアまたはグループで互いの練習の成果を共有・相互鑑賞する。 （鑑賞③～⑤の活動は共通） ○意見交換① ・観点を踏まえ、他者と相互批評・意見交換をする。（意見交換②～④の活動は共通） ○構想・工夫の見直し① ・相互批評・意見交換及びそれらを踏まえた自己評価と、新たに確認・理解した観点を生かして、自身の表現の意図、構想、表現の工夫を見直し、必要な修正と新たな課題を確認する。（構想・工夫の見直し②～④の活動は共通） ○作品制作①－2 ○学習の振り返り① ・本時の活動を振り返り、次時の活動目標を記録する。（学習の振り返り②～④の活動は共通）	教育補助教材等を視聴する。				
		教師や生徒の動画を視聴するなど ICT を効果的に活用する。以下展開2～4も同様。				
2 (2)	○観点の確認② ・「平仮名」と「変体仮名」			観 □		作 □

<p>2 (2)</p>	<p>○構想・工夫② ・「平仮名」と「変体仮名」の使い分けによる表現効果について仮説を設定する。(ペアまたはグループ)</p> <p>○作品制作②-1 ○鑑賞③ ○意見交換② ○構想・工夫の見直し② ○作品制作②-2 ○学習の振り返り②</p>	<p>ワ鑑</p>	<p>作</p>	<p>ワ表</p>	
<p>3 (2)</p>	<p>○観点の確認③ ・「連綿」の効果と意連・形連の表現</p> <p>○構想・工夫③ ・「連綿」の効果と意連・形連の表現について仮説を設定する。(ペアまたはグループ)</p> <p>○作品制作③-1 ○鑑賞④ ○意見交換③ ○構想・工夫の見直し③ ○作品制作③-2 ○学習の振り返り③</p>	<p>ワ表</p>	<p>作</p>	<p>観ワ</p>	
<p>4 (2)</p>	<p>○観点の確認④ ・墨継ぎと線の太細</p> <p>○構想・工夫④ ・墨継ぎと線の太細による表現効果について仮説を設定する。(ペアまたはグループ) ・これまで学習したことに踏まえ、「蓬莱切」を臨書する。</p> <p>○作品制作④-1 ○鑑賞⑤ ○意見交換④ ○構想・工夫の見直し④ ○作品制作④-2 (清書) ○学習の振り返り④ ○最終自己評価 ・これまで活動を振り返り、作品の変化や表現の工夫の経緯、自身が思考を積み重ねてきた過程、身に付けた知識や技能を改めて確認し、一連の活動について自己評価を行う。</p> <p>○単元の学習のまとめ ・これまでの学習を振り返り、「仮名の書」での学習内容、その中で併せて学習してきた[共通事項]の内容について改めて確認するとともに、作品の意味や価値について考え、書や文字の生活や社会との関わりについて考える。 ・「仮名の書」の学習を通して身に付けた知識や技能、「感じたことや捉えたこと、考え方」を生</p>		<p>作表</p>	<p>ワ鑑</p>	<p>ワ表</p> <p>ワ鑑</p>

	活や社会の中でいかに生かすことができるかについて、主体的に考える。				
--	-----------------------------------	--	--	--	--

5 本事例における観点別学習状況の判断の例

評価の観点と単元の評価規準		○「おおむね満足できる」状況（B）の例 ◎「十分満足できる」状況（A）の例 ◆「努力を要する」状況（C）と判断される生徒への手立て
知識・技能	<p>知</p> <p>・線質や書風と用筆・運筆との関わりについて理解している。 【表現】</p> <p>・線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わりについて理解している。【鑑賞】</p>	<p>○線質や書風と用筆・運筆との関わりについて理解し、活動の中で身に付けた知識を表現の活動に活用している。</p> <p>◎線質や書風と用筆・運筆との関わりについて深く理解し、本学習活動の中で身に付けた知識を表現活動の中で適切に活用している。</p> <p>◆学習活動を振り返らせ、用筆や運筆によって線質や書風が変化することを確認し、今回の学習について実感的に理解できるよう支援する。</p> <p>○線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わりについて理解して表現及び鑑賞の活動で活用している。</p> <p>◎線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わりについて深く理解し、表現及び鑑賞の学習活動の中で身に付けた知識を適切に活用している。</p> <p>◆学習活動を振り返らせ、身に付けてきた知識について確認したり、意見交換や構想・工夫の記録から自ら行った表現の工夫を確認したりすることで、実感的に理解できるよう支援する。</p>
	<p>技</p> <p>・古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能を身に付けている。</p>	<p>○古典に基づく表現を、自身の表現の意図及び構想に基づき表現を工夫し表している。</p> <p>◎古典に基づく効果的な表現を身に付け、自身の表現の意図及び構想に基づき適切に表現を工夫し表すことができている。</p> <p>◆具体例を示して表現法を確認させ、その技能を活用し表現を工夫して表すということを実感的に捉え、表すことができるよう支援する。</p>
思考・判断・表現	<p>思</p> <p>・知識や技能を得たり生かしたりしながら古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し工夫している。 【表現】</p> <p>・鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら、作品の価値とその根拠について考え、書によさや美しさを味</p>	<p>○これまでの学習活動の中で得た知識や技能を働かせて、自身の表現の意図に基づき学習活動を見直し、言語化している。</p> <p>◎これまでの学習活動の中で身に付けた知識や技能を得たり生かしたりしながら、自身の感じ方や捉え方、考え方を総合的・統合的に働かせて、自身の表現の意図に基づき学習活動を見直し、適切に言語化することができている。</p> <p>◆考える手立てや観点を示したり、言語活動を通して他者の意見を参考にしたりするなどして、これまでの学習活動の中で身に付けた知識や技能と関連させながら、自身の学習活動の見直しに生かすことができるよう支援する。</p> <p>○鑑賞に関わる知識を自身及び他者の作品の表現の工夫について根拠をもって味わい捉え、言語化している。</p> <p>◎鑑賞活動を通して鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら、自身及び他者の作品の表現の工夫について、そのよさや美しさを実感的に感受し、作品の意味や価値について根</p>

		<p>わい捉えている。【鑑賞】</p>	<p>拠をもって味わい捉え、生活や社会における書の効用について深く考え、適切に言語化することができている。</p> <p>◆考える手立てや観点を示したり、言語活動を通して他者の意見を参考にしたりするなどして、これまでの学習活動の中で身に付けた知識や技能と関連させながら、書のよさや美しさ感受し、作品の意味や価値について味わい捉え、生活や社会における書の効用について深く考えられるよう支援する。</p>
主体的に学習に取り組む態度	態 表	<p>・主体的に表現の幅広い学習活動に粘り強く取り組もうとしている。</p>	<p>○学習活動の中で身に付けた知識・技能を活用し、自らの表現の意図に基づき、振り返ったり見通しを立てたりしながら構想・工夫を見直し取り組もうとしている。</p> <p>◎学習活動の中で身に付けた知識・技能を活用し、書の伝統と文化の価値、書や文字の意味や価値について深く考えるとともに、自らの表現の意図に基づき、振り返ったり見通しを立てたりしながら構想・工夫を見直し、粘り強く作品制作に取り組もうとしている。</p> <p>◆学習活動を振り返らせ、参考とする古典、名筆や現代の書の表現の工夫を確認したり、構想・工夫の記録から捉え直したりすることで、身に付けてきた知識・技能を活用して表現を工夫できるよう支援する。</p>
	態 鑑	<p>・書や作品の意味や価値について自己調整しながら主体的に鑑賞の幅広い学習活動に取り組もうとしている。</p>	<p>○書や文字の意味や価値について学習を振り返ったり見通しを立てたりしながら鑑賞活動に取り組もうとしている。</p> <p>◎学習活動の中で身に付けた知識・技能を活用し、書の伝統と文化の価値、書や文字の意味や価値について深く考えるとともに、鑑賞を通しての学習を振り返ったり見通しを立てたりしながら、主体的に鑑賞活動に取り組もうとしている。</p> <p>◆学習を通して鑑賞した古典や自らが制作してきた作品を振り返らせることで、作品や書のよさや美しさを感じたり、書の伝統と文化の価値、書や文字の意味や価値について考えたりできるよう支援する。</p>

6 学習活動例での見取りと支援の例

《展開1 評価例》

〈指導に生かす評価（例）〉

思表 生徒作品をペアまたはグループで互いの意見を交換し合う状況を見取る。既得の知識・観点や新たに得た知識・観点を生かして考え、自己評価と構想の見直しに取り組んでいる状況を、意見交換での発言やワークシートの記述から見取る。

本展開での活動例では、美しく伸びやかで生命線のある線質を表現するための工夫を、互いの意見を構想・工夫の見直しに生かそうとしている状況が、ワークシートの記述から見取れた。

〈支援・助言（例）〉

基本的な用筆・運筆に対して理解しにくい場合には、ICTを活用し、繰り返し動画等を視聴しながら、用筆・運筆の表現技法や表現効果について気付かせる。

※以下、展開2～5の〈指導に生かす評価（例）〉・〈支援・助言（例）〉については省略する。

《展開2 評価例》

〈記録に残す評価（例）〉

知鑑 指導と評価

・表現性や表現効果について知識を活用して分析的に捉えるよう指導し、古典の鑑賞を通して、書を構成する要素や仮名の書の特質に関する要素が表現効果、風趣にどのように関わっているかを捉え、仮名の書の特質に関わる要素の表現性・表現効果を生む働きについて考えながら、構想、表現の工夫の見直し・再構築に取り組んでいる状況を見取り評価する。【活動の様子】

【ワークシート】

【評価A（例）】

【ワークシート記入（例）】

平仮名・変体仮名を認識・区別することができたことで、前の時間に習った転折、円運動、結びなど動きがより明確となった。使い分けによる表現効果については、簡単に習得できるものではないので、様々な古筆を鑑賞し、分析する体験を積み重ねていきたい。

・意見交換を生かして適切に構想・工夫を再構築している様子がワークシートから見とれたのでAとした。

【評価B（例）】

【ワークシート記入（例）】

平仮名・変体仮名それぞれの字源を知ることができた。また、その組み合わせの文字構成によって表現が変わってくることに気が付いた。

・意見交換を生かして適切に構想・工夫を再構築している様子がワークシートから見とれたが、より具体的な表記がなかったためBとした。

〈記録に残す評価（例）〉

思表 指導と評価

・他者との意見交換を通して、作品の鑑賞や意見交換で得た感じ方や捉え方、考え方を構想・工夫の見直しに生かすよう指導し、仮名の書の特質に関わる要素の表現性・表現効果を生む働きについて考えながら、構想、表現の工夫の見直し・再構築に取り組んでいる状況を見取り評価する。【活動の様子】【ワークシート】

【ワークシート記入（例）】

平仮名の字形は高さや幅に近いものが多くやや単調である。変体仮名は文字によって形の大小の差が大きい。また、変体仮名が加わることで高さ・幅に変化が生まれ、文字列の曲線が美しくみえる。

【評価（例）】

・「平仮名」と「変体仮名」の違いを理解し、使い分けることで生まれる表現の工夫について粘り強く取り組もうとしている様子がワークシートから見取れたのでAとした。

《展開3 評価例》

〈記録に残す評価（例）〉

知表 指導と評価

・仮名の用筆・運筆、特に意連・形連などの連綿の見られる部分をよく観察し、筆脈を意識して書くよう指導し、仮名の書における用筆・運筆による表現効果の活用に関する知識を活用して、幅広く多角的な視点から捉え理解し、活用している状況を見取り評価する。【活動の様子】

【ワークシート】

【評価A（例）】

【ワークシート記入（例）】

筆脈を意識して書くことで、リズムが生まれ、運筆がスムーズになった。また、いくつかの文字を連ねることで文字造形が変わり、大小様々な文字群が生まれた。これからは意連に気を付けて筆順を意識して作品制作に取り組みたい。

・筆脈を意識し、連綿の表現効果に関する知識を活用して状況が活動の様子やワークシートから見取れたのでAとした。

【評価B（例）】

【ワークシート記入（例）】

形連は目で見てわかりやすかったけど、意連を見つけるのはとても苦勞した。仮名の学習では筆順が大事だと思った。

・筆脈を意識して作品制作に取り組んでいる状況は見取れたが、連綿の表現効果に触れていないためBとした。

《展開4 評価例》

〈記録に残す評価（例）〉

態表 指導と評価

・これまでの学習をもとに、意図に基づく構想の実現に向けて表現を工夫するよう指導し、その実現に向けて粘り強く取り組もうとしている態度を見取る。【活動の様子】【ワークシート】
【評価A（例）】

【ワークシート記入（例）】

墨継ぎが作品に変化をもたらすための意図的な表現技法であることがわかった。また、運筆の緩急、抑揚によって墨色の変化が生まれ、作品に強弱と明暗を表現できた。

【評価（例）】

・表現の工夫について粘り強く取り組もうとしている様子がワークシートから見取れたのでAとした。

【評価B（例）】

【ワークシート記入（例）】

これまで取り組んできた学習内容を丁寧に振り返りながら、蓬萊切の表現効果から生まれる風趣を理解できた。分析的な臨書ができるよう取り組みたい。

・これまでの学習をもとに、意図に基づく構想の実現に向けて表現を工夫する態度は見られたが、より具体的な表記がなかったためBとした。

〈記録に残す評価（例）〉

技 指導と評価

・仮名の表現技法を理解して、新たに得た知識や、身に付けた技能を適切に活用するとともに、効果的に工夫して表せるよう指導し、修正した構想に基づいて古典の特徴を効果的に表現しているかを見取り評価する。【作品】【活動の様子】

【評価A（例）】

・熱心に書表現の活動に取り組み、完成度が高く、構想・工夫の見直しを繰り返し、身に付けた技能を活用して表現を工夫して適切に表していることが見とれたのでAとした。

【評価B（例）】

・書表現の活動の中で、構想・工夫の見直しを繰り返し、身に付けた技能を活用して表現を工夫していることが作品から見取れたが、完成度については優れたものまでは至らなかったためBとした。

〈記録に残す評価（例）〉

思鑑 指導と評価

・これまでの活動を振り返り、作品の変化や表現の工夫の経緯、自身が思考を積み重ねてきた過程、身に付けた知識や技能を改めて確認するよう指導し、最終自己評価において、見方・考え方を働かせて一連の活動について、適切な用語を用いて言語化しているかを見取り評価する。【活動の様子】【ワークシート】

【ワークシート記入（例）】

仮名の書を見たのも書いたのも初めてで、できるかどうか不安だったけど、段階を踏んで学習を重ねることによって、仮名の特質を理解することができた。生命力のある線や余白の効果、墨の潤渇等まだまだ足りない部分はあったけど、自分なりに成果を実感することができたので満足した。

【評価（例）】

・これまでの学習活動で身に付けた知識や技能を、根拠に基づいて、適切な用語を用いて言語化していることが活動の様子やワークシートから見取れたのでAとした。

〈記録に残す評価（例）〉

態鑑 指導と評価

・これまでの活動を通して鑑賞・評価することの意義に気付くとともに、鑑賞活動を通じて自らの表現を見出すことの楽しさや大切さを実感することで、新たに芸術科書道の学習に取り組む意欲を自ら高められるよう指導し、作品や鑑賞することの意味や価値について主体的に考えようとする態度を見取り評価する。【活動の様子】【ワークシート】

【ワークシート記入（例）】

平仮名に字源があったことに興味が湧いた。普段から字源を意識して平仮名を書けば必然的に美しくなるのではないかと思った。また、連綿で学んだ筆脈も同様に実生活の中に取り入れていきたい。

・鑑賞・評価することの意義を実感し、意欲をもって主体的に取り組もうとする態度がワークシートから見取れたのでAとした。

7 観点別学習評価の総括

(1) 観点別学習状況の総括の具体

〈記録に残す評価の総括（例）〉

知識・技能		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度			
知識	技能		表現における主体的に学習に取り組む態度	鑑賞における主体的に学習に取り組む態度		
記①表	記②鑑	記録①表	記①表	記②鑑	記①表	記②鑑
B	A	A	A	A	A	A
A		A	A	A	A	A
A		A	A	A	A	A

(2) 本事例における観点別学習状況の評価の総括（例）

評価規準	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	知	技	思	表	態表	態鑑	
主な学習活動	鑑賞（知識の活用）	意見交換（知識の活用）	作品制作	構想・工夫（再構築）	単元のまとめ（自己評価）	構想・工夫（表現の工夫）	単元の学習のまとめ
展開1			・ a ・ A	・			
展開2		鑑	・ b ・ B	表			
展開3	表		・ c ・ C	・			
展開4			・ d 表 D		鑑	表	鑑
生徒い	A		B	B		A	A
	A					A	
生徒ろ	B		C	A		A	C
	B					B	

※ 「・」は、指導の改善に生かす評価。表 鑑 は、記録に残す評価。

※ 観点別評価の総括の仕方については、評価結果のA, B, Cの組み合わせを基に評価する場合、評価結果のA, B, Cの数を基に評価する場合、評価結果のA, B, Cを数値に置き換えて評価する場合など、各学校が実情等に応じて予め決めておくこととなるが、本事例においては、「知識・技能」では技能を重視して評価すると予め決めていたので技能を重視してAとし、「主体的に学習に取り組む態度」については「A表現」と「B鑑賞」を同等に評価すると予め決めていたので、その平均としてBとした。

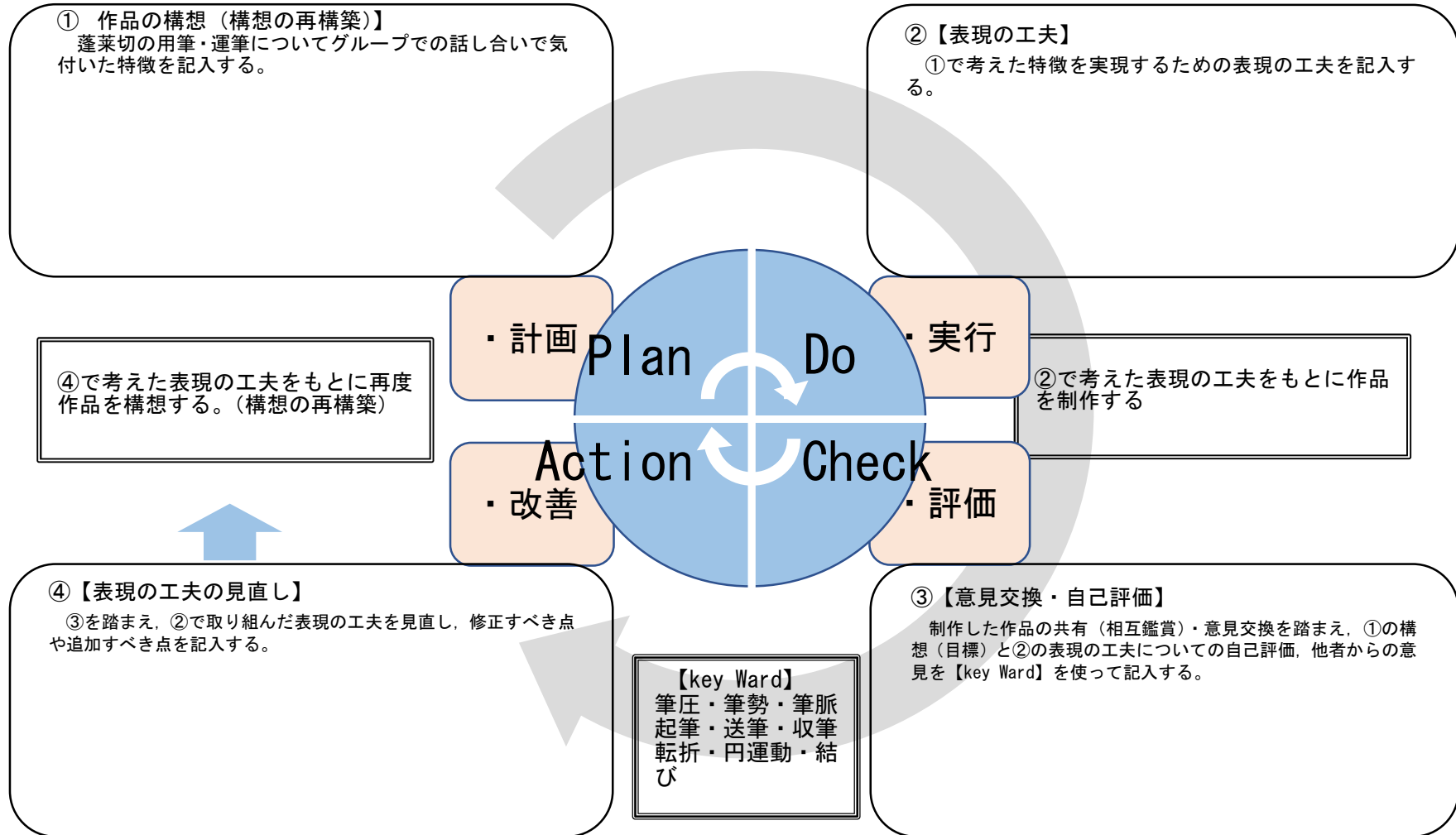
※ 本事例において「作品制作」は、すべての展開を通じて実施し、継続して見取り授業の改善に生かすこととした。

※ 本事例で「a」「A」等を付した活動は、身に付けさせたい資質・能力の育成状況を把握・評価するために比較等して見取る一連の活動を示し、「a（アルファベット小文字）」は育成の過程、「A（アルファベット大文字）」は成果（記録に残す評価の対象）を示している。

時間をかけて行う活動等の記録は、評価の総括のためだけでなく、学習の過程において生徒が自分の学習の深まりを実感的に振り返り、また、振り返ったことを効果的に活用できるよう、作品を画像データとして蓄積したり、1枚のワークシートに継続して記録させたりする。

書道 I 蓬莱切の臨書【 ① 用筆・運筆 ② 平仮名・変体仮名 ③ 連綿 】

年 組 番 氏名 (_____)



芸術科（書道） 事例6（書道Ⅰ）
 キーワード 指導と評価の計画から評価の総括まで

単元名
 仮名の創作
 ～自作の和歌を作品にしよう～

内容のまとめり（複合単元）
 「A表現」(3) 仮名の書 及び「共通事項」(1),
 「B鑑賞」(1)

1 単元の目標

- (1) 「知識及び技能」
- ・線質や書風と用筆・運筆との関わりについて理解する。【「A表現」(3)イ(イ)】
 - ・線質，字形，構成等の要素と表現効果や風趣との関わりについて理解する。【「B鑑賞」イ(ア)】
 - ・連綿と単体，線質や字形を生かした表現の技能を身に付ける。【「A表現」(3)ウ(イ)】
- (2) 「思考力，判断力，表現力等」
- ・知識や技能を得たり生かしたりしながら，意図に基づいた表現について構想し工夫する。
 【「A表現」(3)ア(イ)】
 - ・鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら，作品の価値とその根拠について考え，書のよさや美しさを味わって捉える。【「B鑑賞」ア(ア)】
- (3) 「学びに向かう力，人間性等」
- 自身の表現の意図に基づき，漢字仮名交じりの書の特質に基づいて表現することや，書のよさや美しさを感じ，作品や書の意味や価値等について考えながら鑑賞することに主体的に取り組む，書に対する感性を豊かにし，書を愛好する心情を養う。

2 単元の評価規準 ※ 国研資料 p. 33, p. 38 参照

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>[共通事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・用筆・運筆から生み出される書の表現性とその表現効果との関わりについて理解している。 ・書を構成する要素について，それら相互の関連がもたらす働きと関わらせて理解している。 <ul style="list-style-type: none"> ・線質や書風と用筆・運筆との関わりについて理解している。 ・線質，字形，構成等の要素と表現効果や風趣との関わりについて理解している。 ・連綿と単体，線質や字形を生かした表現をするための技能を身に付け，表している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・意図に基づいた表現について構想し工夫している。 ・創造された作品の価値とその根拠について考え，書のよさや美しさを味わって捉えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に表現の幅広い学習活動に粘り強く取り組もうとしている。 ・書や作品の意味や価値について自己調整しながら主体的に鑑賞の幅広い学習活動に取り組もうとしている。

3 指導と評価の計画（概要）

学習活動		知識・技能		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
		知	技	思	態表	態鑑
展開1	鑑賞①	↓	↓	↓	↓	○
	観点の確認①					
	構想・工夫①					
	意見交換①					
	構想・工夫の見直し①					
	学習の振り返り①					
展開2	作品制作①	● 評価場面	○	↓	● 評価場面	↓
	意見交換②					
	構想・工夫の見直し②					
	作品制作②					
	学習の振り返り②					
展開3	鑑賞②	● 評価場面	○	↓	● 評価場面	↓
	学習の振り返り③					
	最終自己評価					
	単元学習のまとめ					
	単元の学習のまとめ					

● 評価場面 ; 評価を記録に残す場面 ○: 指導に生かす評価を重点的に行う場面 矢印: 評価の継続性

4 指導と評価の計画 (全12時間)

展開 (時数)	ねらい・学習活動	評価の方法				
		観活動の様子	ワークシート	作品	鑑表	は記録に残す評価
		知	技	思	態表	態鑑
1 (3)	<p>○鑑賞①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・古典作品の鑑賞を行い，制作者の表現の意図や表現の工夫，古典作品としての価値について考える。 <p>○観点の確認①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運筆の遅速，緩急，墨色や墨量の違いにより線質が変化すること，それによって書風が違ってくことなどを踏まえ，線質や書風と用筆・運筆との関係，線質，字形，構成等の要素と表現効果や風趣との関係について確認する。 <p>○構想・工夫①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国語「言語文化」で創作した短歌を題材に，古典作品の鑑賞で学習した知識等を活用して，どのように表現するか構想のためのワークシートを用いて考える。 <p>[構想のためのワークシート]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・線質，字形，構成，墨色，余白 等 ・変体仮名の組み合わせ 等 <p>※ 変体仮名の組み合わせや構成，墨色等については，視覚的に確認できるよう，ICTを活用する。</p> <p>○意見交換①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・[構想のためのワークシート]を用いて，自分の作品創作の意図について説明し，他者に伝わる表現へとつながっているか意見交換をする。(ペア又はグループ) <p>○構想・工夫の見直し①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意見交換を経て，[構想のためのワークシート]を見直し，創作作品の構成要素をよりよい表現となるよう吟味する。 <p>○学習の振り返り①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の意図が伝わるような表現となるために，書を構成する要素をよりよく吟味する重要性について，気付いたことや反省点をまとめる。 					フ
		観フ		フ		
		フ				
				フ		
					フ	

<p>2 (6)</p>	<p>○作品制作① ・[構想のためのワークシート]に基づいて、表現する。</p> <p>○意見交換② ・制作途中の作品について、他者と相互鑑賞し、知識を活用して表現性や表現効果について説明を行い、意見交換をする。(ペア又はグループ)</p> <p>○構想・工夫の見直し② ・意見交換を経て、[構想のためのワークシート]を見直し、創作作品の構成要素をよりよい表現となるよう吟味する。</p> <p>○作品制作② ・吟味した内容を踏まえて、表現する。</p> <p>○学習の振り返り② ・自分の意図が伝わるような表現となるために、書を構成する要素をよりよく吟味する重要性について、気付いたことや反省点をまとめる。</p>	<p>作</p> <p>ワ表</p> <p>作表</p>	<p>ワ表</p>	<p>ワ</p>	
<p>3 (3)</p>	<p>○鑑賞② ・創作した書作品について、ICTを活用して発表資料を作成し、発表会を実施する。 ・発表会では、作成者の意図を踏まえながら、作品について根拠をもって批評し合う。</p> <p>○学習の振り返り③</p> <p>○最終自己評価 ・これまでの活動を振り返り、意図に基づいた表現の工夫について、仮名の特質を踏まえてどのように吟味を重ね、実際の表現活動につなげたかを確認し、書に関する見方・考え方を働かせて自己評価を行う。</p> <p>○単元の学習のまとめ ・これまでの学習を振り返り、「仮名の書」での学習内容、その中で併せて学習してきた[共通事項]の内容について改めて確認するとともに、創造された作品の意味や価値について改めて考え、「仮名の書」の特質と書や文字がもたらす印象について考える。 ・「仮名の書」の学習を通して身に付けた知識や技能、見方・考え方を生かしながら、書のよさや書がもたらす印象について考え、自分の言葉でどのように表現するかについて、主体的に考える。</p>	<p>観鑑</p>	<p>ワ鑑</p>	<p>ワ表</p>	<p>ワ鑑</p>

5 本事例における観点別学習状況の判断の例

評価の観点と単元の評価規準		○「おおむね満足できる」状況（B）の例 ◎「十分満足できる」状況（A）の例 ◆「努力を要する」状況（C）と判断される生徒への手立て
知識・技能	知	<p>・線質や書風と用筆・運筆との関わりについて理解している。 【表現】</p> <p>○古典作品の鑑賞の学習活動で身に付けた知識を生かし、用筆・運筆によってどのような線質や書風が生まれるかについて理解している。 ◎上記に加えて、作品の制作意図を踏まえながら、作品を表現するのにふさわしい線質や書風を具体的にイメージし、そのためにはどのような用筆・運筆が効果的かを、実感的に理解している。 ◆仮名の書の臨書学習を振り返らせ、表現効果の異なる書作品を例示するなどして理解することができるよう支援する。</p>
	技	<p>・線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わりについて理解している。 【鑑賞】</p> <p>○鑑賞と表現の学習活動で身に付けた知識を生かし、書作品の味わいが、どのような線質、字形、構成等によってもたらされているかについて理解している。 ◎上記に加えて、その作品の味わいについて、作品に表れた仮名の特徴的な線質、字、構成等と作者の制作意図を関連付け、実感的に理解している。 ◆仮名の書の臨書学習を振り返らせ、味わいの異なる書作品を例示するなどして、書を構成する要素について再度確認させるとともに、その表現効果が生み出す味わいについて理解することができるよう支援する。</p>
思考・判断・表現	思	<p>・連綿と単体、線質や字形を生かした表現をするための技能を身に付け、表している。【表現】</p> <p>○変体仮名を無理なく自然に続け、運動性を意識して、線質に質感をもたせた書表現の技能が身に付いている。 ◎上記に加えて、仮名の特質を踏まえた連綿等の表現が、吟味した構想に基づいて、全体として調和のとれた書作品に仕上がっている。 ◆表現する言葉のつながり等を意識させながら、言葉のまとまりごとに練習させてみるなど、字形の基本的な用筆・運筆ができるよう支援する。</p> <p>・意図に基づいた表現について構想し工夫している。 【表現】</p> <p>○制作意図に基づいて、作品制作や意見交換等を踏まえて自分の構想・工夫を見直し、その内容を適切に言語化している。 ◎上記に加えて、作品の全体の調和を考えながら全体を再構成し、制作意図と仮名特有の表現効果を結びつけ、適切に言語化している。 ◆構想のためのワークシートを用いながら、考える手立てや観点を具体的に示したり、教師が対話の相手となって、生徒が表現したい作品の内容や構成を言語化させたりしながら、自身の構想・工夫の見直しと再構築ができるよう支援する。</p>

		<p>・創造された作品の価値とその根拠について考え、書のよさや美しさを味わって捉えている。【鑑賞】</p>	<p>○鑑賞活動を通して、自他の作品について、仮名の書の見方・考え方を働かせ、そのよさや美しさを実感的に感受し、制作された作品の価値と用いられた仮名の表現効果について、自分の考えを適切に言語化している。</p> <p>◎上記に加えて、制作意図と表現効果を関連付けながら、その作品がもたらす印象について、自分の考えを適切に言語化している。</p> <p>◆批評シートを用いながら、考える手立てや観点を具体的に示し、教師が対話の相手となって、生徒が鑑賞した作品に対して抱いた印象を言語化できるよう支援する。</p>
主体的に学習に取り組む態度	態表	<p>・主体的に表現の幅広い学習活動に粘り強く取り組もうとしている。</p> <p>・書や作品の意味や価値について自己調整しながら主体的に鑑賞の幅広い学習活動に取り組もうとしている。【表現】</p>	<p>○構想のワークシートや完成作品を基に、これまでの表現活動を踏まえ、意図に基づいた表現となるよう、線質や字形、構成等を吟味しながら、よりよい書作品となるよう取り組もうとしていたかについて、具体的に言語化している。</p> <p>◎上記に加えて、制作しようとする作品が他者にどのような印象を受けるかの視点も踏まえて、よりよい書作品となるよう吟味を重ねたことが読み取れる。</p> <p>◆構想のワークシートを基に、構想、作品制作、構想の見直し、作成制作の各段階でどのようなことを考えてきたか具体的に振り返らせ、どのように吟味してきたか具体的に言語化できるよう支援する。</p>
	態鑑	<p>・書や作品の意味や価値について自己調整しながら主体的に鑑賞の幅広い学習活動に取り組もうとしている。【鑑賞】</p>	<p>○古典作品の鑑賞学習で身に付けた見方・考え方を働かせながら、作品の意味や価値について粘り強く主体的に考えようとしている。</p> <p>◎上記に加えて、作品に対して第一印象で感じた自分の直感的感覚を、自ら分析的に探求しようとしている。</p> <p>◆古典作品の鑑賞で用いた資料や、構想のワークシート及び批評シートを基に、構想、作品制作、構想の見直し、対象となる作品からどのような印象を受けるか考えさせ、具体的に言語化できるよう支援する。</p>

6 学習活動例での見取りと支援の例

《展開1 評価例》

〈指導に生かす評価（例）〉

態鑑 指導と評価

・制作者の表現の意図や表現の工夫、古典作品の価値等についての授業者の解説や資料の読み取りを踏まえて古典作品の鑑賞を行い、その中で感じたり考えたりしたことを、ワークシートの記述から見取る。

本展開での活動例では、展開1の初期段階で鑑賞の学習に対する生徒の態度を見取ること、今後の指導の具体的手立てや支援の声がけに生かすことをねらいとしている。「主体的に学習に取り組む態度」は、生徒のももとの資質・能力に加えて、授業者による意図的・計画的な指導によって育まれる部分が大いいため、初期段階での生徒の実情を十分に把握する必要がある。

〈支援・助言（例）〉

鑑賞の学習に対して積極的に取り組むことができない生徒は、仮名の特徴や、作品のどのような点に着目すればいいのかが分からないことから、特徴の異なる作品を示して比較させたり、作品に対する率直な感想を言葉にして書き留めさせたりするなどして、学習への具体の取り組み方を理解させる。

※以下、展開2～3の〈指導に生かす評価（例）〉・〈支援・助言（例）〉については省略する。

《展開2 評価例》

〈記録に残す評価（例）〉

知表 指導と評価

・構想において、和歌の内容をよりよく表現できるよう、線質、字形、墨色、余白、変体仮名の組み合わせ等で工夫した点を紹介し合い、観点をもとにして意見交換を行うよう指導し、知識を活用して表現性や表現効果を捉えて説明を行っているかを見取り、その状況を評価する。【ワークシート】

【評価A（例）】

【ワークシート記入（例）】

和歌の内容が、洛神花の華やかな赤色にしばし見入ってしまったという感動を詠んだものなので、関戸本古今和歌集のように潤滑や線の太細に変化をつけて、印象的な表現になるようにしたいと思いました。また、変体仮名は、一つの単語はできるだけ続けて書けるような文字を選び、流れのある作品にしたい。

・作品の制作意図を踏まえながら、作品を表現するのにふさわしい線質や書風を具体的にイメージしていることから、Aとした。

【評価B（例）】

【ワークシート記入（例）】

仮名文字の柔らかさが表現できるよう、画数の少ない変体仮名を選び、文字と文字の距離や墨継ぎの場所に変化がでるような構成にしました。

・書作品の味わいが、どのような線質、字形、構成等によってもたらされているかについて理解しているが、作品の制作意図を踏まえながら、具体的にイメージしているとまではいえないことから、Bとした。

〈記録に残す評価（例）〉

思表 指導と評価

・他の生徒の作品や意見交換で得たことを構想・工夫の見直しに生かすよう指導し、新たな観点で構想・工夫を再構築しているかを見取り評価する。【ワークシート】

【評価A（例）】

【ワークシート記入（例）】

強い感動を詠んだ和歌の内容に合わせて、線質には変化がつくよう工夫したけれど、意見交換では、行の構成が行頭行末揃いすぎていて、全体的な印象が平坦になってしまった感じだという意見があったので、左右にまとまりを分けて、より印象的な表現になるように構成し直しました。

・作品の全体の調和を考えながら全体を再構成し、制作意図と仮名特有の表現効果を結びつけ、適切に言語化していることから、Aとした。

〈記録に残す評価（例）〉

技 指導と評価

・構想を修正し、仮名の特質に基づいて技能を適切に活用するとともに、効果的な線質で表現できるよう指導し、その活動の過程で技能を身に付け、効果的に表しているかを見取り評価する。【完成作品】

【評価A（例）】

・作品から構想・工夫の見直し、仮名の特質である連綿や行の構成が効果的が適切に修正され、身に付けた技能を活用して表現を工夫して、作品全体が調和のとれた仕上がりとなっていたのでAとした。

【評価B（例）】

・変体仮名は無理なく自然に続けて書かれており、線質にも質感が感じられる書表現の技能が身に付いている。しかし、作品全体としてはぎこちなさのこり、調和がとれた仕上がりとはまではいえないのでBとした。

《展開3 評価例》

〈記録に残す評価（例）〉

知鑑 指導と評価

・構想に基づいてどのような書表現にしたか等の工夫した点を紹介し合い、観点をもとにして意見交換を行うよう指導し、仮名の書の特質を踏まえながら分析し、知識を活用して批評しているかを見取り、その状況を評価する。【観察】

【評価A（例）】

【発言（例）】

細めの線質と淡い墨色から、さみしげな印象が感じられ、人との別れをテーマにした和歌によく合っていたと思う。構成は、散らし書きにしたほうが、より印象的だったと思う。

・書作品の味わいが、どのような線質、字形、構成等によってもたらされているかについて実感的に説明しているので、Aとした。

〈記録に残す評価（例）〉

思鑑 指導と評価

・鑑賞に関わる知識を生かして互いの作品を鑑賞し、その良さや改善点について根拠に基づいて意見交換するよう指導し、他者が創作した作品の価値について考え、書のよさ美しさを味わって捉え、適切な用語を用いて言語化しているかを見取り評価する。【観察】【批評シート】

【評価A（例）】

【ワークシート記入（例）】

Yさんの作品は、人との別れをテーマにしている、さみしさや悲しさを表現するために線質を細くしたり、乱れる気持ちを画数の多い変体仮名を使ったりして表現していました。また、上の句と下の句を上下の山に分けた構成がよく、優美な感じを受け、全体として調和のとれた素敵な作品だと思った。

・制作意図と表現効果に関連付けながら、その作品がもたらす印象について、自分の考えを適切に言語化している。

【評価B（例）】

【ワークシート記入（例）】

全体的に淡く細い線質で表現したYさんの作品からは、静かな印象で、まとまりのあるいい作品だと思った。上の句と下の句を上下の山に分けた構成もいい。

・作品のよさや美しさを実感的に感受し、制作された作品の価値と用いられた仮名の表現効果について、自分の考えを適切に言語化しているが、制作意図と表現効果の関連付けまではされていないので、Bとした。

〈記録に残す評価（例）〉

態表 指導と評価

・これまでの表現活動を踏まえ、意図に基づいた表現となるよう線質や字形、構成等で吟味したことを具体的に記録するよう指導し、その振り返りにおいて、表現の工夫に粘り強く取り組もうとしている態度を見取り評価する。【ワークシート】

【評価A（例）】

【ワークシート記入（例）】

洛神花の華やかな色に感じた感動を書から感じ取ってもらいたかったので、潤滑や線の太細に変化をつけるという工夫をしましたが、言葉一つ一つを気にしすぎていたら、墨継ぎの位置が横並びになっているということを意見交換の時に言われました。全体のバランスを考えながら墨継ぎの場所を考え直す点が難しかったです。また、変体仮名は1つの音に対して複数あるので、古典作品を参考にしながら、和歌の内容に合うよう、柔らかで流れのでるような組み合わせを考えるのが楽しかったです。

・制作しようとする作品が他者にどのような印象を受けるかの視点も踏まえて、よりよい書作品となるよう吟味を重ねたことが読み取れる。意見交換を生かして適切に構想・工夫を再構築している様子がワークシートから見とれたのでAとした。

〈記録に残す評価（例）〉

態鑑 指導と評価

・書のおよさや美しさを感じ、作品や書の意味や価値について考えたことを具体的に記録するよう指導し、鑑賞学習の活動に主体的に取り組もうとする態度を見取り評価する。【ワークシート】

【評価A（例）】

【ワークシート記入（例）】

今回の仮名の創作は、国語の授業で詠んだ自分の和歌を書きましたが、何が書いてあるかは読めなくても、書かれた文字の雰囲気から、力強さや喜び、さみしさといった感情が伝わるようでした。授業では、端正な蓬莱切やシャープな印象の針切などの作品を鑑賞しましたが、字が美しいというだけでなく、美しさにも特徴があり、紙の色や墨の濃淡、行の構成等の違いによっても印象が違いました。これから仮名の書を見るときには、何が書いてあるかだけでなく、どのように書いてあるかに目を向けていきたいです。

・古典作品の鑑賞学習で身に付けた見方・考え方を働かせながら、作品に対して第一印象で感じた自分の直感的感覚を、自ら分析的に探求しようとする作品の意味や価値について粘り強く主体的に考えようとしている様子がワークシートから見とれたのでAとした。

【評価B（例）】

【ワークシート記入（例）】

変体仮名は今の私たちには読めない文字ですが、自然な連綿で表現された作品は、とても美しいと思いました。皆の作品も、変体仮名の組み合わせや墨の濃淡などが工夫されていて、それぞれの個性が出た作品だったと思います。これから仮名の書を見る機会があったら、今回の学習を生かしたいと思います。

・古典作品の鑑賞学習で身に付けた見方・考え方を働かせながら、作品の意味や価値について粘り強く主体的に考えようとしている様子がワークシートから見とれたが、作品に対して第一印象で感じた自分の直感的感覚を、自ら分析的に探求しようとする姿勢までは見とれないので、Bとした。

7 観点別学習評価の総括

(1) 観点別学習状況の総括の具体

〈記録に残す評価の総括（例）〉

知識・技能		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度			
知識	技能		表現における主体的に学習に取り組む態度	鑑賞における主体的に学習に取り組む態度		
記①表	記②鑑	記録①表	記①表	記②鑑	記①表	記②鑑
B	A	A	B	B	A	B
A			B	B		
A		B	A			

(2) 本事例における観点別学習状況の評価の総括（例）

評価規準	知識・技能			思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度			
	知		技	思			態表	態鑑		
主な学習活動	観 点 の 確 認	意 見 交 換	鑑 賞	作 品 制 作	構 想 ・ 工 夫	構 想 ・ 工 夫 の 見 直 し	鑑 賞 （ 相 互 鑑 賞 ）	学 習 の 振 り 返 り	鑑 賞 （ 古 典 作 品 ）	単 元 の 学 習 の ま と め
展開1	・	・		a	・	・		b	c	
展開2		表		A表		表		b		
展開3			鑑				鑑	B表		C鑑
生徒い	A		A	B			A	B		
	A			B			A			
生徒ろ	C		B	B			B	C		
	B			B			B			

※ 「・」は、指導の改善に生かす評価。表 鑑 は、記録に残す評価。

※ 観点別評価の総括の仕方については、評価結果のA、B、Cの組み合わせを基に評価する場合、評価結果のA、B、Cの数を基に評価する場合、評価結果のA、B、Cを数値に置き換えて評価する場合など、各学校が実情等に応じて予め決めておくこととなるが、本事例においては、「知識・技能」では技能を重視して評価すると予め決めていたので、「生徒ろ」については技能を重視してBとし、「主体的に学習に取り組む態度」については「A表現」を重視すると予め決めていたので、「表現の態度」を重視して評価した。

※ 「学習の振り返り」は、すべての展開を通じて実施し、継続して見取り授業の改善に生かすこととした。表現領域の記録に残す評価は主に展開2で実施し、鑑賞領域の記録に残す評価は、生徒作品の相互鑑賞等での活動から見取るため展開3で行うこととした。

※ 本事例で「a」「A」等を付した活動は、身に付けさせたい資質・能力の育成状況を把握・評価するために比較等して見取る一連の活動を示し、「a（アルファベット小文字）」は育成の過程、「A（アルファベット大文字）」は成果（記録に残す評価の対象）を示している。

時間をかけて行う活動等の記録は、評価の総括のためだけでなく、学習の過程において生徒が自分の学習の深まりを実感的に振り返り、また、振り返ったことを効果的に活用できるよう、作品を画像データとして蓄積したり、1枚のワークシートに継続して記録させたりする。

仮名の創作く自作の和歌を作品にしようく

「構想のためのワークシート」

1 書作品にする自作の和歌

和歌

どんな思いを詠んだ和歌か。

2 仮名作品にする上で参考としたい古典作品

作品名

どのような点を、作品に取り入れたいか。(線質・構成・墨色等)

3 変体仮名を組み合わせてみよう。

年 組 () ()

画像データを用いて、組み合わせた変体仮名を確認しよう。

案 1

案 2

芸術科（書道） 事例7（書道Ⅰ）
 キーワード 指導と評価の計画から評価の総括まで、「主体的に学習に取り組む態度」の評価、
 ICTの活用

単元名
 「鑑賞」
 ～地域文化の学習～

内容のまとめり
 「B鑑賞」(1) 及び〔共通事項〕










1 単元の目標

- (1) 「知識及び技能」
- ・線質，字形，構成等の要素と表現効果や風趣との関わりについて理解する。【「B鑑賞」イ(ア)】
- (2) 「思考力，判断力，表現力等」
- ・鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら，作品の価値とその根拠について考え，書のよさや美しさを味わい捉える。【「B鑑賞」ア(ア)】
 - ・鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら，生活や社会における書の効用について考え，書のよさや美しさを味わい捉える。【「B鑑賞」ア(イ)】
- (3) 「学びに向かう力，人間性等」
- 書のよさや美しさを感じ，作品や書の意味や価値等について考えながら鑑賞することに主体的に取り組む，書に対する感性を豊かにし，書を愛好する心情を養う。

2 単元の評価規準 ※ 国研資料 p. 33, p. 38 参照

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・用筆・運筆から生み出される書の表現性とその表現効果との関わりについて理解している。 ・書を構成する要素について，それら相互の関連がもたらす働きと関わらせて理解している。 <ul style="list-style-type: none"> ・線質，字形，構成等の要素と表現効果や風趣との関わりについて理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作品の価値とその根拠について考え，書のよさや美しさを味わい捉えている。 ・生活や社会における書の効用について考え，書のよさや美しさを味わい捉えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・書や作品の意味や価値について自己調整しながら主体的に鑑賞の幅広い学習活動に粘り強く取り組もうとしている。

3 指導と評価の計画（概要）

学習活動		知識・技能		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度			
		知	技	思	態表	態鑑		
展開 1	学習活動の確認							
	観点の確認①						◎	
	地域文化の学習と拓本採取							
展開 2	観点の確認②							
	調査の記録	●	評価場面					
	調査のまとめ		●				評価場面	
展開 3	発表会・鑑賞会	◎						
	観点の確認③	◎						
	最終自己評価						●	評価場面
	単元の学習のまとめ						●	評価場面

● 評価場面 ; 評価を記録に残す場面 ◎: 指導に生かす評価を重点的に行う場面 矢印: 評価の継続性

4 指導と評価の計画及び学習活動例での見取りと支援の例（全3時間）

展開 (時数)	ねらい・学習活動	評価の方法 観活動の様子 ワークシート 作品 鑑 は記録に残す評価				
		知	技	思	態表	態鑑

展開1の指導計画

1 (1)	<p>○学習活動の確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本学習の意義と学習活動の過程を理解する。 <p>○観点の確認①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既習の観点を確認し、新たな観点を理解する。 ・線質，字形，構成等の要素と表現効果 <p>(以下，観点の確認①～③は共通)</p> <p>○地域文化の学習と拓本採取</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の歴史や文化について学習するために，地域の石碑を鑑賞して採拓する。 	観	観点の確認や地域文化の学習についてICTを効果的に活用して理解を深める。			

学習活動例での見取りと支援の例

《展開1 評価(例)》

<p>〈指導に生かす評価(例)〉</p> <p>知鑑 観点の確認を生かして石碑を鑑賞し，地域の歴史や文化について学習している状況を見取る。既得の知識・観点や新たに得た知識・観点を生かして考え，鑑賞の活動に取り組んでいる状況を，活動の様子から見取る。</p> <p>本展開での活動例では，生徒の地域の歴史や石碑についての知識が不足していたが，ICT等を活用して紹介したことで観点を生かして石碑を鑑賞し，字形や構成の要素と表現効果について理解しようとしている状況が活動の様子から見取れた。今後は生徒の理解が深まるようICTを効果的に活用するよう工夫したい。</p> <p>〈支援・助言(例)〉</p> <p>鑑賞が苦手な生徒に対しては，地域の歴史や文化について説明するとともに，石碑の具体的な箇所を指し示して注目させながら，線質や字形，構成等の特徴で気が付いたことを言葉にさせて，自分や他者が口にしたそれらの言葉をメモさせる。</p> <p>※以下，展開2～4の〈指導に生かす評価(例)〉・〈支援・助言(例)〉については省略する。</p>

展開2の指導計画

2 (1)	<p>○観点の確認②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文の形式・内容と書体・構成 	観			
	<p>○調査の記録</p> <ul style="list-style-type: none"> ・採拓の感想を記録し、石碑や詩歌（文）について調べたり取材したりしたことを記録する。 	ワ鑑			
	<p>○調査のまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・採取した拓本や取材した記録をもとにグループで石碑に刻まれた詩文の解釈をし、作者や揮毫者についても調べてまとめる。 		ワ鑑		

タブレット等を活用して現地の様子や採拓風景等を記録させる。

学習活動例での見取りと支援の例

《展開2 評価（例）》

〈記録に残す評価（例）〉

「知識・技能」

知鑑 指導と評価

・実際に体験した感想や石碑について調べたことを記録するとともに、観点を生かして文の形式や内容と書体や構成との関係について記録するよう指導し、その活動の様子と地域の歴史や文化に関心をもち、書のよさや美しさを感じ取って線質、字形、構成等の要素と表現効果との関わりについて理解しているかをワークシートから見取り評価する。【活動の様子、ワークシート】

【評価A（例）】

【ワークシート記入（例）】

大きな丸い石で拓を採るのが難しかった。万葉集の歌が訪れた人にもわかりやすいように行書体で書かれていて行の構成も散らし書きだが文節で改行されていたのでとても読みやすかった。書かれているのはこの地と関わりのある和歌で、広々とした芝生に石碑がとても合っていて趣を感じた。

・文の形式や内容と書体や構成との関係を踏まえて、地域の歴史や文化に関心をもち、線質、字形、構成塔の要素と表現効果との関わりについて深く理解している様子が活動の様子やワークシートから見取れたのでAとした。

【評価B（例）】

【ワークシート記入（例）】

大きな丸い石で拓を採るのが難しかった。万葉集の歌人の歌がわかりやすく書かれていた。

【評価（例）】

・体験した感想や詩歌の作者について調べたことが書かれていたのでBとしたが、観点の確認で示した文の形式と書体や構成との関係についても鑑賞するよう助言した。

学習活動例での見取りと支援の例

《展開3 評価（例）》

〈記録に残す評価（例）〉

「主体的に学習に取り組む態度」

態鑑 指導と評価

・本単元の学習を通して書の美の表現の多様性に気付くとともに、書が生活や地域の中で果たしている役割や書の効用を実感することで、新たに芸術科書道の学習に取り組む意欲を自ら高められるよう指導し、その活動の過程と鑑賞活動を通して主体的に書や書作品の意味や価値について自己調整しながら粘り強く鑑賞の活動に取り組もうとする態度を活動の様子やワークシートから見取り評価する。【活動の様子、ワークシート】

【評価A（例）】

【ワークシート記入（例）】

この活動で自分の鑑賞の仕方が感覚的なもので、理由まで考えていなかったことがわかったので、これからの活動では、なぜそう思ったのか、どうしてそう見えたのか、その理由を考えて発表しようと思った。

【評価（例）】

・自らの活動を振り返り、書や書作品の意味や価値について自己調整しながら粘り強く取り組もうとしている態度が活動の様子やワークシートから見取れたのでAとした。

〈記録に残す評価（例）〉

「思考・判断・表現」

思鑑 指導と評価

・これまでの学習活動を振り返り、書作品の意味や価値、生活や社会における書の効用について考えるとともに、鑑賞の学習を通してどんなことが身に付いたか、身に付いたことを生活や社会の中でどのように生かすことができるか考えるよう指導し、その活動の様子と生活や社会と書との関わり、学習で身に付けた知識等の活用について思考・判断し、適切に言語化しているかをワークシートから見取り評価する。【活動の様子、ワークシート】

【評価A（例）】

【ワークシート記入（例）】

この活動で書が石碑として地域にたくさんあることがわかった。また、活字ではなく手書き文字で書かれた文字が彫られていることが地域に馴染み、さらに歴史を感じることもわかった。今後は手書き文字がどんなところにあるのか、また、どのような理由があるのか気を付けてみようと思った。

・生活や社会と書との関わりについて思考・判断し、適切に言語化して表現していることがワークシートから見取れたのでAとした。

5 本事例における観点別学習状況の判断の例

評価の観点と単元の評価規準		○「おおむね満足できる」状況（B）の例 ◎「十分満足できる」状況（A）の例 ◆「努力を要する」状況（C）と判断される生徒への手立て
知識・技能	知	<p>・線質, 字形, 構成等の要素と表現効果や風趣との関わりについて理解している。【鑑賞】</p> <p>○地域の歴史や文化について, 書のよさや美しさを感じ取って線質, 字形, 構成等の要素と表現効果との関わりを理解し記録している。</p> <p>◎鑑賞の学習活動の中で身に付けた知識を活用して適切に記録するなど, 地域の歴史や文化に関心を持ち, 書のよさや美しさを感じ取って線質, 字形, 構成等の要素と表現効果との関わりについて深く理解している。</p> <p>◆学習活動を振り返らせたり, タブレット等を利用したりして身に付けてきた知識について実感的に理解できるよう支援する。</p>
	技	
思考・判断・表現	思	<p>・作品の価値とその根拠について考え, 書のよさや美しさを味わって捉えている。【鑑賞】</p> <p>○鑑賞の活動の様子や意見交換を通して自分の記録を振り返り, 作品のよさや価値について根拠を示しながら言語化して表現している。</p> <p>◎鑑賞の活動の様子や意見交換を通して自分の記録を振り返り, 自身の感じ方や捉え方, 考え方を総合的・統合的に働かせて作品のよさや価値について深く考え, 根拠を示しながら適切に言語化して表現している。</p> <p>◆他の人の感想や調査したことを振り返り, 自分の記録について根拠があるかどうかを確認させ, 根拠に基づいて考えをまとめるよう支援する。</p>
	態表	<p>・生活や社会における書の効用について考え, 書のよさや美しさを味わっている。【鑑賞】</p> <p>○これまでの活動を通して生活や社会と書との関わりについて考え, 適切に言語化している。</p> <p>◎これまでの学習活動を振り返り, 書作品の意味や価値, 生活や社会における書の効用について深く考え, 鑑賞の学習を通して身に付けた知識等を活用して生活や社会と書との関わりについて深く考え, 適切に言語化している。</p> <p>◆これまでの学習でどんな活動をしてきたかを振り返り, その中で書作品がどのように生かされていたか考えるよう支援する。</p>
主体的に学習に	態表	
	態鑑	<p>・書や作品の意味や価値について自己調整しながら主体的に鑑賞の幅広い学習活動に粘り強く取り組もうとして</p> <p>○これまでの学習を振り返り, グループ活動等で身に付いたことを生かして今後の学習に取り組もうとしている。</p> <p>◎これまでの学習を通して書の美の表現の多様性に気付き, 書が生活や地域の中で果たしている役割や書</p>

取 組 む 態 度	いる。	<p>の効用を実感して、新たに芸術科書道の学習に取り組む意欲を自ら高めて主体的に書や書作品の意味や価値について自己調整しながら粘り強く鑑賞の活動に取り組もうとしている。</p> <p>◆調べ学習やグループ活動でどんなことを身に付けたか振り返って改善すべき点を見つけ出し、どのように改善すべきか考えるよう支援する。</p>
-----------------------	-----	--

6 観点別学習評価の総括

(1) 観点別学習状況の総括の具体

<記録に残す評価の総括(例)>

知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
知識	技能			鑑賞における主体的に 学習に取り組む態度
記②鑑	—	記①鑑	記②鑑	記②鑑
B	—	A	A	
B		A		A

(2) 本事例における観点別学習状況の評価の総括（例）

評価規準	知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度	
	知		思			態鑑	
主な学習活動	鑑賞（知識の活用）	記録（知識の活用）	単元の振り返り（言語化）	意見交換（言語化）	単元の学習のまとめ	意見交換（相互批評）	単元の学習のまとめ
展開1	・						
展開2	・	鑑		鑑			
展開3	・	・	鑑				鑑
生徒い	B		A	A		A	
			A				
生徒ろ	A		A	C		B	
			B				

※ 「・」は、指導の改善に生かす評価。鑑は、記録に残す評価。

※ 観点別評価の総括の仕方については、評価結果のA, B, Cの組み合わせを基に評価する場合、評価結果のA, B, Cの数を基に評価する場合、評価結果のA, B, Cを数値に置き換えて評価する場合など、各学校が実情等に応じて予め定めておくこととなるが、本事例における観点別評価の総括については、「思考・判断・表現」の記録に残す2つの評価を同等に評価すると予め決めていたため、その平均としてBとした。

※ 本事例での「知識」の観点は、すべての展開を通じて実施し、継続して見取り授業の改善に生かすこととした。

※ 本事例での意見交換の活動については、1枚のワークシートに継続して記録させたりするなどし、評価の総括のためだけでなく、生徒自身が学習を振り返ったり今後の学習に見通しを立てたりすることに活用できるよう指導を工夫した。

1 調査・記録

調べたことや感想などを記録しよう。

(1) 調査等

1 (感想・地域の様子・石 碑の形など)	2 (詩歌や文の読み・内容 など)	3 (作者・筆者について調 べたことなど)

(2) 意見交換

調べたことをグループで共有しよう。

さん			
さん			

2 調査のまとめ

グループで話し合ったことをまとめよう。

--

3 発表会・鑑賞会

他のグループの発表について感想を記録しよう。

	A班		B班		C班	
声・態度	A・B・C	感想	A・B・C	感想	A・B・C	感想
言語力	A・B・C		A・B・C		A・B・C	
資料	A・B・C		A・B・C		A・B・C	
調査内容	A・B・C		A・B・C		A・B・C	

4 自己評価

今回の学習について、自分の活動を振り返ろう。

--

5 単元のまとめ

この活動で書と地域との関わりについてまとめよう。

--

※ 今回は1枚のワークシートにしたが、実際の授業では複数枚も考えられる。

1 ICTの効果的な活用について

書道においては、「用具・用材の特質・特性を体感したり、実物と直接向き合ったりする学習活動と、「ICTを活用する学習活動」とを「学習内容やその段階に応じて適切に関連付けながら、効果的に指導できるよう工夫することが重要である。

中等教育資料 7 月号「新学習指導要領とICTの効果的な活用①（解説 音楽，美術，芸術（音楽，美術，工芸，書道））（令和元年7月）より

（1）ICTを活用すること

- ① 制作過程における運筆、筆などの運動を記録・蓄積し、客観視したり、ポートフォリオとして学習成果や変容の比較・検証に主体的に取り組むことができる。
- ② 記録した動画や画像をクラス全体で共有（鑑賞）し、意見交換や相互批評等の言語活動を、全体での対話・交流へと充実・発展させることができる。
- ③ 感じ方や捉え方を他者と共有したり、リアルタイムで意見や考えを共有したりすることができる。
- ④ インターネットを活用して、多様な文字やその表現に触れたり、直接触れたり見たり味わったりすることができない世界を体験したりすることができる。
- ⑤ 生徒個々の個性や創造性に応じて、主体的に学習に取り組めるようにすることができる。
- ⑥ 自身の学習過程・思考過程はもちろんのこと、教師による個人および集団に対する指導を、生徒個々のペースで振り返り、繰り返し確認することで、自らで思考を深めながら学習を進めることができる。
- ⑦ 運筆・線質に関わる指導内容（遅速・緩急・抑揚・呼応等）への理解を、生徒が主体的に深めることができる。
- ⑧ 書道の学習で重要な運動性や時間性について、スロー再生等の機能を使って理解を深めることができる。

（2）ICT活用上の留意点

- ① ICTによる画像や動画では、書の多様な美や書の特性に大きく関わる筆者の性情、呼吸、息づかい等は伝えづらい。
- ② ICTの利点を生かし、従来の指導・学習の方法と併用するなど、書の特性に応じたICTの効果的な活用の工夫が必要。

令和3年度芸術系教科等担当教員等研修会 高等学校芸術科（書道）理論研修
（令和3年12月9日）より

(3) ICT活用例

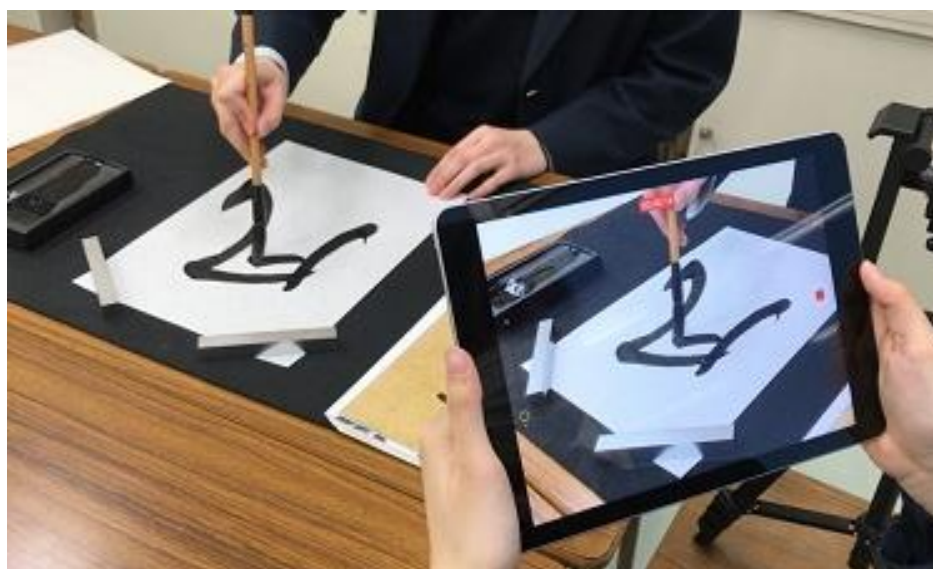
活用場面①「生徒の運筆の様子を動画で記録する」



生徒の運筆の様子を真横から動画で撮ることによって、筆の角度、筆先の使い方、起筆から終筆までのリズム等を具体的に捉えることができ、生徒自身の自己確認、授業者による指導、技能の評価等に活用することができる。

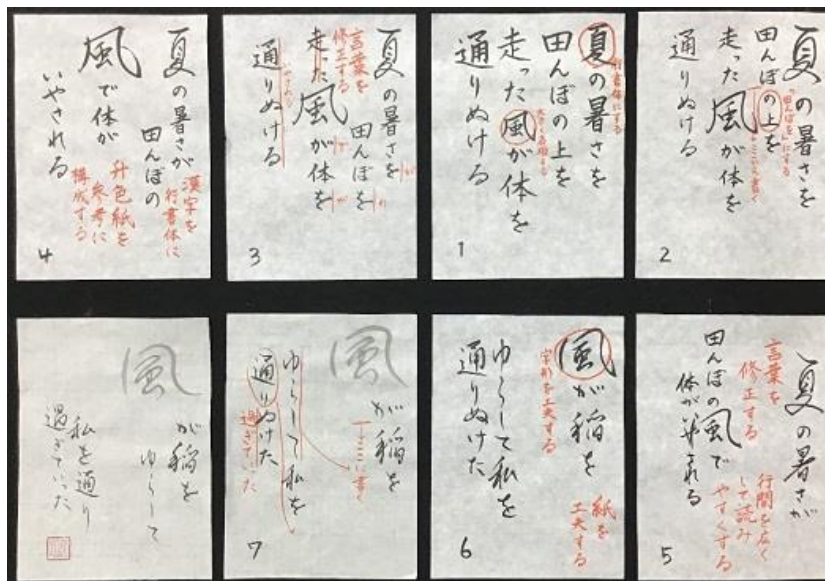
特に、生徒自身が学習の過程で繰り返し行うことで、自己調整しながら学習に臨む具体の手立てになる。

活用場面②「生徒の作品の制作場面を記録する」



生徒の作品の全体を上から動画で撮ることによって、運筆の様子、起筆から終筆までのリズム、字形、余白等、1枚の作品全体の作成過程を確認することができ、調和のとれた作品の制作に役立てることができる。

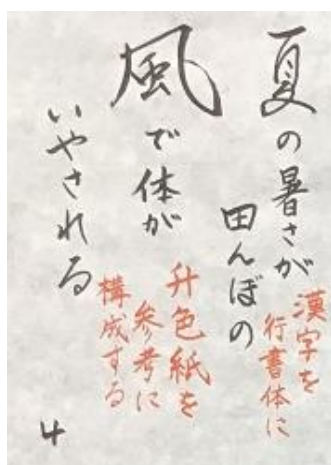
活用場面③「作品制作における工夫の過程を写真で記録する」



主体的に学習に取り組む態度（表現）」の見取りについては、ワークシートの生徒の記述からの見取りではなく、制作した作品から見取る場合も多い。その場合、作品を制作順に並べて1枚の写真に収めると、工夫の過程が一目瞭然と確認できる。作品を写真に撮り、ポートフォリオで記録する方法は有効であるが、生徒ごとの作品を毎時間写真に残すことは大変で、生徒自身が毎時間タブレットを開いて確認するのも時間がかかる。

上記例では、朱書きは授業者のコメントではなく、生徒自身が行っている。次々と作品を書いて枚数を重ねるのではなく、構想と工夫を念頭に置きながら、次の用紙に書く前に、どの点をどのように注意したらいいかを自分で朱書きさせている。

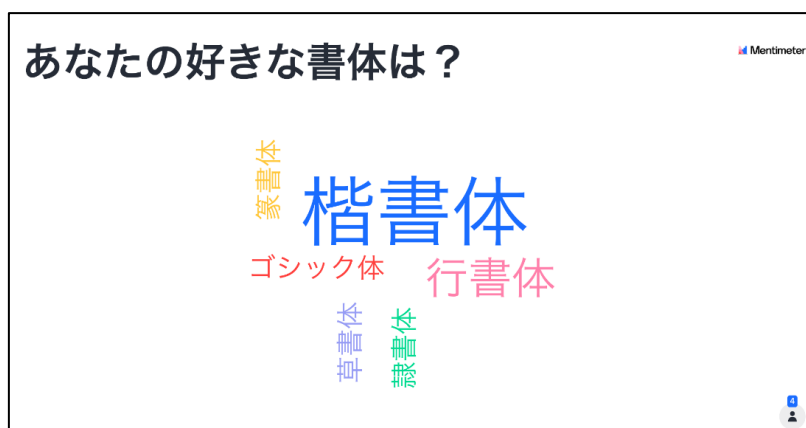
これにより、生徒自身が書の見方・考え方を働かせ、よりよい作品となるよう自己を調整する力の育成につなげることができ、授業者は生徒が何をどのように考えながら調和のとれた作品となるよう工夫していったかを見取り、評価することに役立てることができる。



生徒自身のコメントから、次は「行書体」で書こうとか、「古筆の構成」を参考にしようとしている様子が見える。また、工夫を重ねる中で、部分的な修正だけでなく、作品全体の調和ということを考えながら修正を加えているかどうかということも見取ることができる。

※ この生徒自身のコメントにより、生徒が書道の用語を学習のよって獲得し、実感をもって活用でき、不十分な場合は、授業者は評価するだけでなく、自分の授業の実現状況として真摯に捉え、授業改善を図る必要がある。

活用場面④「生徒の意見をリアルタイムで共有する」



単元の導入やまとめでリアルタイムアンケートアプリを活用すれば生徒の意見を瞬時に集約し、共有することができる。事例のワードクラウドは多数意見や少数意見が視覚的に示されるので、指導者は生徒の意見や認識の相違等をすぐに指導に生かすことができ、生徒としては、他の生徒がどんな意見があるのか、また自分と同じ意見の生徒がどれほどいるのかをすぐに知ることができ、学習に臨む具体の手立てになる。

2 ICTでは叶えられない実感的な体験の重要性について

書に関する見方・考え方を働かせ、生涯にわたって書を愛好する心情や感性、書の伝統と文化に親しむ態度等の育成にあたっては、ICTでは叶えられない本物との出会いや、体感といったものが非常に重要である。

その具体的事例を紹介する。

(1) 事例1「墨作り体験教室」

高校教育課の外部講師活用事業を活用し、奈良の墨作りの職人（錦光園店主）を招いて、講義、実演、体験実習を実施。

【講義場面の様子】



講義では墨が2200年前に中国で生まれ、その後、シルクロードを通して日本に伝来し、なぜ奈良が生産の拠点となったかの歴史や、墨の主原料の「煤（すす）」が、墨汁では鉱物性（カーボン）であるのに対して、固形墨は赤松や菜種などの植物性であること、墨の独特な香りは、固形墨の接着材である膠（にかわ）の匂いを消すためのショウノウの香りであること。また、作られた墨は、最低でも3ヶ月以上は乾燥させることなど、墨作りについてお話いただいた。鉱物性と植物性では、煤（すす）の色味が異なることや、芳しいショウノウ香りに、いろんな気付きを得て、生徒たちは興味深く話を聞いていた。

【にぎり墨体験の様子～自分の手を型にして～】



講義の後、実際に、固形墨にするための型入れの実演を見せていただき、最後は、生徒1人1人が、自分の手でにぎる手法で墨を成形するという、簡単な実習を実施。ほの温かい黒光りする粘土のような生墨の手触りなど、実物に触れることで得られる感動は、生徒の心に書を愛好する小さな火を灯す時間となった。

(2) 事例2「拓本取り体験授業」

校地内の碑や、自治体の生涯学習課等の協力を得て近隣の碑などを用いて、拓本取りに挑戦する授業の実践事例である。

教科書で何気なく目にする「拓本」は、なぜ字の部分が白いのか。また、拓本は、筆で書いた文字ではないはずなのに、なぜそれぞれ違った雰囲気を出しているのか。また、書が生活や社会のどのように活用されているのかなど、実際の拓本取りを通じて確かな理解へとつなげるとともに、碑の内容や自治体の文化財等に体する興味関心を引き出し、伝統文化を大事にしようとする確かな心情や態度の育成をも期待できる。

【拓本取りの様子】



【芸術（書道）部会作成委員】

鎌田 幹子 宮城県教育庁高校教育課指導主事

上遠野裕子 宮城県貞山高等学校教頭

栗山 仁司 宮城県涌谷高等学校教諭

阿部 頼人 仙台市立仙台高等学校教諭